

愛知医科大学学報



愛知医科大学眼科クリニック MiRAI 開院記念式典
テープカットセレモニー（関連記事2頁）

＝ 第167号 ＝

2022. 7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

愛知医科大学眼科クリニック MiRAI 開院	2
令和3年度愛知医科大学決算	7
創立50周年記念事業募金のご協力のお祝い	10
春の叙勲の栄誉	11
医学部長・看護学部長 所信表明	20
文部科学副大臣の本学医学教育視察及び 意見交換会の実施	21
看護学部キャンドルセレモニー挙行	23
教育・研究最前線	54
Smile ～スマイル～	56

愛知医科大学眼科クリニック MiRAI 開院

就任ごあいさつ



—より多くの患者さまが、より身近に、
安心していただけるクリニックを—

愛知医科大学眼科クリニック MiRAI クリニック長 三木 篤也

令和4年7月から名古屋市東区の「愛知医科大学メディカルクリニック」は、眼科の外来診療、日帰り手術専門施設である「眼科クリニックMiRAI」に再編し、開院しました。眼科クリニックMiRAIでは、1) 日帰り手術、2) 外来診療、3) 産学連携研究を三本の柱として、地域医療に貢献すべく努めて参ります。

眼科手術は、技術の進歩により低侵襲化が著しく、日本を除く多くの海外先進国において、ほとんど日帰りで行われるのが一般的です。日帰り手術は患者さんの早期社会復帰を可能とし、医療経済面でも今後益々必要となってきます。本邦でも、最も一般的な眼科手術である白内障手術については、日帰り手術がかなり普及してきましたが、眼科クリニックMiRAIでは、白内障手術だけでなく、私の専門とする緑内障を始め、網膜、眼形成など、愛知医科大学の誇る専門性の高い手術についても日帰り手術で対応していきます。愛知地域における専門性の高い日帰り手術のセンターとして地域医療に貢献していきたいと考えています。

なお、眼科クリニックMiRAIでは手術のみならず、外来診療においても、名古屋市中心部に位置するアクセスしやすい立地と、本院よりも小規模な眼科専門クリニックとしての小回りの良さを活かして、「アクセスしやすく、かつ専門性の高いクリニック」としての独自のポジションを確立していきます。

また、大学のミッションとして、研究にも力を入れます。産学連携研究のハブとして、大学病院ならではの新たな治療、検査の開発を進めていきます。この方面では、株式会社メニコンとの共同研究として近視進行抑制治療の開発に取り組み始めており、それ以外にも新たな治療、検査の開発、評価の研究を積極的に行って参ります。

私は、このたび大阪大学の先輩であり、現在本学眼科学講座の瓶井資弘教授のお導きにより、眼科クリニックMiRAIクリニック長を務めるために、大阪大学から愛知に赴任して参りました。このような施設を大学医学部の附属施設として外部に持つことは、全国的に見ても先進的な取り組みと思います。医師、患者ともに若い世代の大学病院離れが問題となる中、大学病院の高度医療をアクセス良く提供することは時代の要請です。多くの大学病院、診療科にとってのモデルケースとなるポテンシャルがある事業であり、重責に身の引き締まる思いです。私自身は浅学非才の身ですが、祖父江元 理事長、道勇学病院長、瓶井教授を始め、愛知医科大学病院各診療科の先生方のお力を借りて、なんとしても成功させたいと願っております。日帰り手術、外来診療、研究の三本の柱を中心に頑張る参りますので、何卒ご支援を宜しくお願い致します。



開院記念式典挙行

令和4年7月2日（土）午後2時から愛知医科大学眼科クリニックMiRAIにおいて、「愛知医科大学眼科クリニックMiRAI開院記念式典」が挙行されました。なお、新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況を鑑み、式典は規模を縮小して執り行われました。

式典では、始めに祖父江元 理事長から、眼科の日帰り手術と産学連携研究の拠点という眼科クリニックMiRAIのコンセプトについてご紹介がありました。続いて、ご来賓の三宅養三前理事長、株式会社メニコンの田中英成社長から温かい祝辞を頂戴しました。最後に、眼科クリニックMiRAIの三木篤也クリニック長からご来賓の方々への御礼及び今後の抱負についてご紹介がありました。



開院記念式典での祖父江理事長ごあいさつ

式典後には、ご来賓の皆さまとのテープカットが執り行われ、続いて、祖父江理事長、眼科学講座の瓶井資弘教授及び三木クリニック長による記者会見が行われ、無事式典は終了しました。ご来賓の方々、関係各位に改めて感謝申し上げます。



愛知医科大学眼科クリニックMiRAI



リニューアルした受付



眼科クリニックMiRAIの充実した医療機器・設備



令和5年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	
学校推薦型選抜（公募制）	約20名※1	11/1～11/11 [消印有効]	11/26	本 学	12/8	
学校推薦型選抜 （愛知県地域特別枠A方式）	約5名※2					
国際バカロレア選抜	若干名					
一般選抜	約65名	12/5～1/11 [消印有効]	第1次試験 1/24	名古屋，東京 大阪，福岡	1/30	
			第2次試験 2/2・3 （いずれか希望する日）	本 学	2/9	
大学入学共通テスト 利用選抜	前期	約15名	12/5～1/13 [消印有効]	第1次試験 1/14・15 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	2/9
				第2次試験 2/16	本 学	2/24
	後期	約5名	12/5～2/24 [消印有効]	第1次試験 1/14・15 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	3/6
				第2次試験 3/10	本 学	3/16
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	約5名※2	2/17～2/24 [消印有効]	第1次試験 1/14・15 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	3/6	
			第2次試験 3/10	本 学	3/16	

※1 国際バカロレア選抜若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

◆入試科目・配点・時間						
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間	
学校推薦型選抜（公募制） （愛知県地域特別枠A方式）	小論文			5段階評価	60分	
	基礎学力試験 （数学）	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』		100点	60分	
	基礎学力試験 （外国語）	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』		100点	60分	
	面接（個人面接）			5段階評価	—	
国際バカロレア選抜	書類選考・適性検査・面接（個人面接）					
一般選抜	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』，『化学基礎・化学』，『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目選択	200点 （各100点）	100分	
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』	150点	80分	
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	150点	80分	
	第2次試験	小論文			5段階評価	60分
		面接（個人面接）			5段階評価	—
大学入学 共通テスト 利用選抜 （前期）	第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）	100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』，『数学Ⅱ・数学B』	200点 （各100点）		
		理 科	『物理』，『化学』，『生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 （各100点）		
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※	200点		
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—	
大学入学 共通テスト 利用選抜 （後期）	第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章，古典〔古文・漢文〕）	200点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』・『数学Ⅱ・数学B』	200点 （各100点）		
		理 科	『物理』『化学』『生物』の3科目のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点		
		地歴公民	『全科目』のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点		
	外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※	200点			
第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—		
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	試験内容は大学入学共通テスト利用選抜（前期）と同様					

※ 「英語」はリーディング100点を160点に，リスニング100点を40点に換算します。

令和5年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
学校推薦型選抜	指定校制	約15名	10/17～10/28 [消印有効]	11/12	本 学	11/22
	公募制	約15名				
社会人等特別選抜		約5名				
一般選抜		約50名	12/19～1/16 [消印有効]	1/29		2/8
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	約10名	12/19～1/20 [消印有効]	1/14・15 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 受験会場	2/15
	B方式	約5名				
◆入試科目・配点・時間						
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間
学校推薦型選抜	指定校制	面接		—	—	
	公募制	国語	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』		100点	45分
		数学	『数学Ⅰ・数学A』※1		100点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	45分
		面接		—	—	
社会人等特別選抜		小論文		—	60分	
		面接		—	—	
一般選抜		国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』, 『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A』から1科目を選択※1※2		100点	60分
		理 科	『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』 から1科目を選択		70点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	60分
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	国語・数学	『国語（近代以降の文章）』, 『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択		100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※3		100点	
	B方式	国 語	『国語（近代以降の文章）』		100点	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』 から1科目を選択		100点	
		地理歴史・ 公民	『世界史B』, 『日本史B』, 『地理B』, 『現代社会』, 『倫理』, 『政治・経済』, 『倫理, 政治・経済』 から1科目を選択		100点	
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※3		100点			

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

※3 外国語の配点は200点を100点に換算する。

令和5年度大学院医学研究科（博士課程）学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和4年8月1日（月）から
令和4年8月15日（月）まで（必着）
試験日：令和4年10月7日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和4年10月31日（月）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和4年12月1日（木）から
令和4年12月15日（木）まで（必着）
試験日：令和5年1月27日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和5年2月28日（火）

3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。	10：00 ～12：00
面接試験 （志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。）	13：00～

令和5年度大学院看護学研究科（修士課程）学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	看護管理学	修士論文
母子看護学	母性看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
精神・在宅・地域看護学	精神看護学	
	在宅看護学	
高度実践看護学	地域看護学	高度実践看護師 （診療看護師[NP]）
	臨床実践看護学	

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和4年8月5日（金）から
令和4年8月19日（金）まで（消印有効）
試験日：令和4年9月7日（水）
試験場：看護学部棟
合格発表：令和4年9月14日（水）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和5年1月4日（水）から
令和5年1月16日（月）まで（消印有効）
試験日：令和5年2月2日（木）
試験場：看護学部棟
合格発表：令和5年2月8日（水）

4 試験科目・時間

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目（※）
13：15～	面接

※ 専門科目の出題について

- 1 修士論文コース：志願する専攻領域
- 2 高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース：関連領域の病態生理学

令和3年度愛知医科大学決算

令和4年5月30日に開催された理事会及び評議員会において、令和3年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が世界的な広がりをみせてから2年目を迎えた年でした。

外出時のマスク着用は当たり前のものとなり、日常生活を送る中での手指消毒や黙食等の感染症対策もすっかり生活の中に定着したと感じられます。そして、不要不急の呼びかけや外出自粛、ワクチン接種による感染抑制策が推し進められましたが、残念ながらデルタ株による第5波、そして令和4年にはオミクロン株による第6波が押し寄せ、新型コロナウイルス感染症は収束の兆しが見えません。もはやコロナ前の世界に戻るのではなく、コロナによって変化してきた行動様式をどのように日常生活の中に受け入れて、対応していくかが課題となっています。

このように令和3年度は新型コロナウイルス感染症と向き合い続けた年となりましたが、制約を受けつつも工夫を凝らして、できる限り『コロナ対応』しながら多くの事業を実施したことを誇れる年でもあります。ITを活用することにより自宅でも大学でも講義を受け、オンライン上での学習プログラムを利用することができるようになり、いつでもどこでも学習することができるようになったことは成果の一つです。

病院では、専用病室の整備等基本的なコロナ対策は令和2年度中に実施しましたが、令和3年度は更に空調陰圧化や専用病床の拡張等の整備工事を実施し、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを進めました。併せて、ワクチン接種も積極的に実施し、県の委託を受けて大規模集団接種会場を設置するなど、大学病院として期待される使命に応えることができました。この接種会場が設置された本学メディカルセンターは令和3年4月に念願の分院として開院したばかりでしたが、ワクチン接種でも地域に貢献することができ、意義のある一歩を踏み出すことができました。

このように、コロナと戦いつつイノベーションプロジェクトを推進し、力の及ぶ限り多くの事業を展開しました。

そのような種々の活動成果によって、新病院開院（平成26年5月）から8年目を迎えた令和3年度の医療収入決算額は、コロナ禍の中、令和2年度の366億円を大きく上回る423億円（対前年比+15.6%）を計上することができました。因みに、メディカルセンター分を除く医療収入においても40,022,871千円と400億円の大台を初めて超えることができました。

一方、支出の中で大きなウエイトを占める人件費は、教員や病院スタッフの人的資源の確保を図りつつ、人件費率が1.4ポイント改善し、38.3%となりました。こうしたことから、事業活動収支差は16.5億円強のプラスとなりました。

事業活動収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：百万円)

		科目	金額	前年差		
教育活動収入の部	事業活動収入	学生生徒等納付金	5,005	△47		
		手数料	198	△20		
		寄付金	421	△29		
		経常費等補助金	3,507	△311		
		付随事業収入	1,686	1,154		
		医療収入	42,346	5,699		
		雑収入	1,026	274		
		教育活動収入計	54,189	6,719		
		教育活動支出の部	事業活動支出	人件費	20,772	1,730
				教育研究経費	30,612	4,274
管理経費	966			111		
徴収不能額等	12			4		
教育活動支出計	52,363			6,118		
		教育活動収支差額	1,827	601		
教育活動外収入の部	事業活動外収入	受取利息・配当金	5	0		
		教育活動外収入計	5	0		
		教育活動外支出の部	借入金等利息	255	△14	
			教育活動外支出計	255	△14	
		教育活動外収支差額	△251	14		
		経常収支差額	1,576	615		
特別収入の部	事業活動収入	資産売却差額	7	6		
		その他の特別収入	90	△359		
		特別収入計	97	△352		
	事業活動支出	資産処分差額	3	△9		
		その他の特別支出	13	12		
		特別支出計	16	3		
		特別収支差額	80	△355		
		基本金組入前当年度収支差額	1,657	260		
		基本金組入額合計	△6,082	897		
		当年度収支差額	△4,425	1,157		
		前年度繰越収支差額	△62,674	△5,540		
		基本金取崩額	3,285	3,243		
		翌年度繰越収支差額	△63,814	△1,140		

(参考)

事業活動収入計	54,291	6,367
事業活動支出計	52,634	6,107

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

資金収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	5,005	△53	人件費支出	20,691	1,874
手数料収入	198	△36	教育研究経費支出	26,682	4,108
寄付金収入	421	△357	（うち医療経費支出）	(24,412)	(3,767)
補助金収入	3,548	1,805	管理経費支出	722	116
（国庫補助金収入）	(1,387)	(△404)	借入金等利息支出	255	△30
（地方公共団体補助金収入）	(2,161)	(△266)	借入金等返済支出	2,412	620
資産売却収入	1007	1,007	施設関係支出	891	754
付随事業・収益事業収入	1,686	1,172	設備関係支出	1,923	750
医療収入	42,346	4,896	資産運用支出	880	310
受取利息・配当金収入	5	△1	その他の支出	5,339	988
雑収入	1,030	335			
借入金等収入	120	50			
前受金収入	969	3			
その他の収入	9,329	1,544			
資金収入調整勘定	△9,594	△1,756	資金支出調整勘定	△5,958	△2,703
前年度繰越支払資金	6,382	1,109	翌年度繰越支払資金	8,615	2,929
収入の部合計	62,452	9,718	支出の部合計	62,452	9,718

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

貸借対照表

令和4年3月31日現在

(単位:百万円)

資産の部			負債の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
固定資産	49,206	△1,812	固定負債	26,438	△1,235
有形固定資産	43,387	△1,039	長期借入金	18,375	△1,032
土地	9,820	990	学校債	440	△140
建物	26,300	1,842	長期未払金	1,037	△144
構築物	1,272	△103	退職給与引当金	6,586	81
教育研究用機器備品	4,875	304	流動負債	8,689	263
管理用機器備品	165	△11	短期借入金	1,032	△1,200
図書	937	8	1年以内償還予定学校債	260	80
車両	18	△5	未払金	5,950	1,371
建設仮勘定	0	△4,063	前受金	975	△17
特定資産	3,911	△567	預り金	472	29
学校債償還引当特定資産	700	△60	負債の部合計	35,127	△973
借入金返済引当特定資産	800	△500	純資産の部		
医療機器等整備調整資金引当特定資産	2,350	0	科目	金額	前年差
国際交流推進引当特定資産	34	△2	基本金	95,821	2,797
教育研究活性化引当特定資産	27	△5	第1号基本金	92,300	2,734
その他の固定資産	1,908	△205	第4号基本金	3,521	63
借地権	20	0	繰越収支差額	△63,814	△1,140
電話加入権	5	0	翌年度繰越収支差額	△63,814	△1,140
施設利用権	116	△15	純資産の部合計	32,007	1,657
ソフトウェア	1,209	△173	負債及び純資産の部合計	67,134	684
有価証券	11	0			
長期貸付金	546	△17			
保証金	0	0			
預託金	0	0			
流動資産	17,928	2,496			
現金預金	8,615	2,233			
未収入金	8,524	360			
貯蔵品	395	50			
短期貸付金	223	75			
有価証券	0	△240			
立替金	1	△0			
前払金	171	19			
資産の部合計	67,134	684			

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

■前年度との比較（主な増減）

(1) 事業活動収支計算書

令和3年度決算は、事業活動収入54,290百万円（前年度比13.2%増）、事業活動支出52,634百万円（前年度比13.1%増）となり、この収支差額は、1,657百万円の収入超過となった。経常的な収支バランスである経常収支差額は、1,576百万円の収入超過、臨時的な収支バランスの特別収支差額は、80百万円の収入超過となった。経常収支差が前年度から615百万円改善、医療収入額は前年度から5,699百万円改善している。

(2) 資金収支計算書

資金収入の部合計は、625億円で前年対比97億1,800万円の増加となっておりますが、調整勘定等を除く実質的な収入は約103億6,500万円の増収、同様に実質的な資金支出の部合計は、94億9,200万円の増加となりました。

(3) 貸借対照表

資産総額は前年比6.8億円（1.0%）増加の671億円となりました。また、純資産額は前年比17億円（5.5%）増加の320億円となりました。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。

<http://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0105/index.html>



愛知医科大学創立50周年記念式典

愛知医科大学は本年をもって創立50周年を迎えることとなりました。関係各位への感謝の意を表し、ご案内状をお送りさせていただきました皆さまをお迎えして、記念式典を開催させていただきます。なお、予定しておりました祝賀会は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ中止させていただきます。

◇日時 令和4年11月3日（木・祝）

記念式典（第1部）午前10時30分より

記念講演 「世界を照らすLED」名古屋大学特別教授 天野 浩氏

記念式典（第2部）午前12時10分より

◇場所 名古屋観光ホテル 3階 那古の間（名古屋市中区錦1丁目19-30）

創立50周年記念事業募金のご協力をお願い ～先進の医療を人と社会と未来へつなぐ～

愛知医科大学は、昭和46年（1971年）に設置認可を受け、翌昭和47年（1972年）4月に開学しました。その後大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院研究科の学園体制となっています。

「建学の精神」の下、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針として定め、学是「具眼考究」を掲げ、教育・研究・診療の各分野において活躍すべく、勇往邁進に取り組んで参りました。

愛知医科大学は令和4年（2022年）4月に創立50周年を迎えます。次なる50年へ本学が飛躍していくため、「創立50周年記念事業（教育・研究・診療の

基盤整備事業）募金」の趣旨をご理解いただき、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年4月 メディカルセンター開院



令和4年1月 2号館4階に誘致



令和4年7月 眼科クリニック Mirai 開院

創立50周年記念募金 募集要項

募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金

目標金額 10億円

募集金額 個人1口1万円，法人1口5万円

※できましたら、多数口のご協力をお願い致します。

募集方法 ①専用の払込取扱票による金融機関窓口でのお振込み

（払込取扱票をご希望の方は資金・出納室寄附金担当までお問い合わせください。）

②インターネットのお申込みによるクレジットカード、ペイジー等でのお振込み

税制優遇措置 所得税（法人税）上の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。

税制手続きにより寄附金控除が適用されます。

スマホから寄附の
お申込みができます



お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部資金・出納室寄附金担当

TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866

E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp

愛知医大 募金

検索

小池 三奈美元看護部長 春の叙勲の栄誉

本院元看護部長の小池三奈美さんが、令和4年春の叙勲において瑞宝双光章を授与されました。心からお祝い申し上げます。

小池さんは、昭和60年から本院に勤務され、小児科病棟において看護師としての経験を積まれました。その後、平成25年に看護部長へ昇任され、看護担当副院長として看護の質向上のための人材育成を行われるとともに、経営のマネジメントに務められ、病院経営の改善にも貢献されました。また、院内・院外の委員会活動にも積極的に参加されるとともに、平成25年から看護学部の講師として講義や実習環境の調整など看護学生の育成にも尽力されました。

平成30年に定年退職を迎えられた後、公益社団法人愛知県看護協会常務理事として、県内看護職の質の向上のための教育・研究の推進や、県民により良い看護サービスを提供するための取り組みを行われています。



祖父江理事長等との記念撮影



役員・評議員の異動

【理事】

- 辞任 山口 力（令和4年5月31日付）
就任 古井 景（任期：令和4年6月1日～令和7年1月27日）

【評議員】

- 辞任 鳥井彰人，山口 力（令和4年5月31日付）
金山和広（令和4年6月30日付）
就任 金森俊輔，富安 聡（任期：令和4年6月1日～令和7年1月27日）
早川真人（任期：令和4年7月1日～令和7年1月27日）

大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます

大学病院を有する本学へのご協力として、BENKEI様から食料（菓子パン910個）のご寄付についてお申し出を賜りました。このたびのご厚意に

深く感謝申し上げますとともに、前号に引き続きご紹介させていただきます。（受領期間：令和4年5月1日～7月31日）

祖父江逸郎先生 お別れの会 挙 行

令和3年3月29日に享年101歳にてご逝去されました、愛知医科大学の元学長であり、名古屋大学名誉教授、愛知医科大学名誉教授の祖父江逸郎先生のお別れの会が、令和4年7月31日（日）の午後1時30分から、名古屋観光ホテル3階の「那古の間」において開催されました。

昨今の新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況に鑑み、現地開催に加えてオンライン形式（Zoomウェビナー）での参会も可能とし、現地参会者を含め関係各界方面から総勢500名を超える方々の参会がありました。



お別れの会は、始めに黙祷が行われた後、故人と関係の深い名古屋大学及び愛知医科大学を代表する3名の先生方から鄭重なる弔辞を賜りました。最後に、喪主である祖父江元 理事長から謝辞が述べられました。

続いて、弔辞者を含む9名の先生方による指名献花の後、参会者による献花が順次行われました。献花会場の隣室には、祖父江逸郎先生がご活躍された様々な時代の数多くの写真や、ご執筆された書籍が展示され、参会者の方々は在りし日の故人を偲びつつ帰路につかれました。



展示会場の様子



加藤先生



齋藤先生



勝野先生



謝辞を述べる祖父江理事長

<弔辞者>

- ・加藤延夫先生
（公益財団法人大幸財団理事長、元名古屋大学総長）
- ・齋藤英彦先生
（国立病院機構名古屋医療センター名誉院長）
- ・勝野雅央先生
（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学 教授）

<指名献花者>

- ・弔辞者3名
- ・松尾清一先生
（国立大学法人東海国立大学機構・機構長）
- ・柵木充明先生
（公益社団法人愛知県医師会・会長）
- ・渡辺捷昭先生
（公益財団法人長寿科学振興財団・会長）
- ・三宅養三先生
（愛知医科大学・前理事長）
- ・木村 宏先生
（名古屋大学大学院医学系研究科・研究科長／
医学部長）
- ・小寺泰弘先生
（名古屋大学医学部附属病院・病院長）

訃報

中西 正美名誉教授 御逝去



本学名誉教授（産婦人科学講座）の中西正美名誉教授が令和4年5月12日（木）、享年88歳でご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表させていただきます。

中西先生は、昭和35年に名古屋市立大学医学部医学科を卒業し、同大学の産婦人科学講座の助手、講師を経て、昭和47年に本学産婦人科学講座の助教授に就任後、昭和53年には同教授に昇任し、同講座の創設、発展に大きく貢献されました。

平成7年から2年間にわたって教務部長をお務めになり、本学の医学教育の向上のために尽力されました。このほか昭和54年からは、本学附属病

院中央手術部長を17年間の長きにわたりお務めになり、本院の充実、発展に貢献されました。

研究のご専門は婦人科腫瘍領域で、在任期間中には大学院学生19名を指導し、すべて4年間の在学中に学位を取得させるべく卓越した指導力を発揮されました。また、日本産科婦人科学会の理事や、愛知県産婦人科医会理事、日本不妊学会の理事、評議員などの要職も務められました。

以上のように、中西先生は、永年にわたり産婦人科の発展のみならず、本学における臨床・医学教育・研究の進展及び後進の指導にも尽力され、その功績は誠に顕著であります。これまでの本学への多大な貢献に改めて感謝申し上げますとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

訃報

高橋 昭客員教授 御逝去



高橋昭客員教授（名古屋大学名誉教授、公立学校共済組合東海中央病院名誉院長）が、令和4年6月6日（月）にご逝去されました。昭和5年2

月22日のお生まれで、享年93歳でした。

日本の臨床神経学の師、そして自律神経学研究の第一人者でもあられた先生は、昭和53年から内科学第四講座初代教授として本学黎明期の発展に大きく貢献されました。そして、昭和60年から名古屋大学教授として神経内科学講座を主宰され、

平成元年からは同大学医学部附属病院長もお務めになりました。平成5年のご定年退官後は公立学校共済組合東海中央病院の病院長にご就任し、ご勇退される平成12年まで常に臨床の現場に身を置き、清廉・明断な神経学を実践されました。

また、昭和60年から本年の永きにわたり、非常勤講師及び客員教授として本学の臨床神経学教育に注力していただきました。

先生の本学に対する多大なるご尽力に深謝致しますとともに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和4年度医学部父兄後援会定期総会開催

新会長に古井 景氏を選出



令和4年度愛知医科大学医学部父兄後援会・父兄互助会定期総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による持ち回りでの審議が実施され、新会長に古井景氏【写真】

が選出されました。

報告事項として、父兄後援会・父兄互助会の令和3年度事業及び決算について報告されるとともに、審議事項として、古井新会長を始めとする総勢19名

の令和4年度新役員が選出され、令和4年度事業計画及び予算案が原案どおり承認されました。

総会終了後に例年開催されている国試懇談会についても見送ることになりました。

なお、学報掲載に当たり古井新会長から「この1年間役員一同、父兄後援会・父兄互助会の役割を十分に発揮できるよう邁進する所存です。今後とも本会へのご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。」とのあいさつがありました。

令和4年度看護学部父母会定期総会開催

会長に村上 恒久氏が再選



令和4年5月21日（土）に令和4年度看護学部父母会定期総会が開催されました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインによる開催となりました。

本会では、村上恒久会長【写真】のあいさつ後、令和3年度の事業報告及び決算報告がなされ、続いて役員改選が行われました。会長には、村上氏（4学年次生ご父母）が再選され、その他役員17名の方が選出されました。村上会長からは、「責任の重大さを痛感しております。これからの一年間、他の役員の方々とともに引き続きこの父母会をより一層充実したものとし、子供たちの有意義な学生生活、今後の大学の発展のために鋭意努力して参る所存でございます。」とのごあいさつがありました。その後、

令和4年度事業計画及び予算について審議がなされ、原案のとおり承認されました。

議事終了後、坂本真理子看護学部長からは「令和3年度から今年度にかけての看護学部の取り組みのご報告」、高橋佳子教務学生部長からは「令和3年度学修成果のご報告」についてそれぞれお話しがあり、今年度の定期総会は終了しました。

また、定期総会に引き続き、オンラインによる「学年別懇談会」が開催され、ご父母と各学年次の主任・副主任により、熱心な意見交換が行われました。ご父母の皆さまからは、現在、コロナ禍による登校制限のため、教員や友人と接する機会が少なくなってしまっていることから、今後は、登校機会と対面による授業を増やすことを望むご意見が多く寄せられました。

令和4年度愛知医科大学公開講座

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し、座席の間隔を十分に空け、申込制により人数を制限した会場開催となります。

なお、本学が創立50周年を迎える節目の年であることから、総合テーマを「創立50周年記念公開講座」として開催致します。

- 受講対象者 一般市民
- 募集人数 200名（申込制）

9/3 土曜日	10:00	ナースたちの挑戦 ～看護が辿ってきた道と変革への道～	坂本真理子 (看護学部 学部長)
	11:00 12:00	肺癌がんの治療成績向上を目指して ～尾張東部・肺癌早期診断プロジェクト～	井上 匡央 (新産科内科 講師)
9/17 土曜日	10:00	運動は健康にいいの? いったい何にいいの?	尾川 貴洋 (リハビリテーション科 教授)
	11:00 12:00	最新の関節リウマチ診療と健康寿命	高橋 伸典 (整形外科 教授)
9/24 土曜日	10:00	あなたの腎臓やその体の痛みは大丈夫? ～腎臓病やリウマチ膠原病をもっとよく知ろう!～	石本 卓嗣 (腎臓・リウマチ膠原病内科 教授)
	11:00 12:00	いま知っておきたい「敗血症」	渡邊 栄三 (救命救急科 教授)
10/1 土曜日	10:00	あなたの視野は大丈夫? 緑内障について	三木 篤也 (眼科クリニック MIRAI クリニック 院長)
	11:00 12:00	カラダの痛みとココロの痛み —その不思議な関係について	西原 真理 (産婦人科 教授)

- 受講料 無料
- 会場 大学本館たちばなホール

科研費獲得支援セミナー及び申請に関する事務説明の実施

令和4年7月15日（金）午後5時から、ビデオ会議ツール「Zoom」を用いて、科研費獲得支援セミナーと題して、科学研究費助成事業（科研費）への申請予定者に対してセミナーが行われ、140名の参加がありました。

今年度は、名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部研究支援・人材育成部門URAの渡邊真由美氏と、昨年度に引き続き、久留米大学分子生命科学研究所教授の児島将康氏をお招きし、渡邊氏からは「名古屋大学における科研費採択率向上のための取組み」について、一方、児島氏からは「科研費獲得の方法とコツ：実例からつかむ、より良い申請書の書き方」について講演していただきました。両氏には、

過去の科研費獲得支援セミナーや研究力向上を目指した勉強会などでご講演をいただいております。申請書の書き方のアドバイスはもとより、他大学の状況や、科研費全般の動向など貴重な内容の講演となりました。

また、セミナー後には、総務部研究支援課の加藤広悟主事から、科研費の申請方法や事務的な注意点についての説明が行われました。

セミナー及び事務説明後には多くの研究者から質問が寄せられるなど、有意義なものとなりました。

今後も、研究活動の一層の活性化と科研費を始めとする競争的資金の獲得を推進していきます。



献血ご協力ありがとうございました

令和4年6月24日（金）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方にご協力いただきました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

夏の団体献血（結果）

・ 献血受付数	・ 63名
・ 献血できた方	・ 59名 (400ml・48名)
・ 献血できなかった方	・ 4名

次回は令和5年1月頃に予定していますので、ご協力よろしくお祈いします。

令和4年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和4年度新規採用事務職員研修実施

令和4年4月1日（金）及び4日（月）から6日（水）にかけて、新規採用事務職員12名を対象とした事務職員研修が実施されました。研修では、大学の施設見学やコミュニケーションワークを通じて同期同士の仲を深めるとともに、電話対応や文書事務、経理システムなど業務遂行に必要なスキルを学びました。また、内定期間中からグループで取り組んだ「本学及び本院の特徴は？」、「あなたは本学の職員として、どのような大学及び病院にしていきたいですか？」という課題に対する発表が所属する管理職者の前で行われました。

また、4月8日（金）から6月3日（金）までの毎週金曜日に行われた新規採用事務職員向けの事務組織研修では、各部署の先輩職員が講師として自部署について解説を行い、新規採用事務職員は、今後関わっていく事務組織の一つひとつについて詳しく学びました。

研修受講後のアンケートでは、「ビジネスメールや電話対応など、研修で学んだことを実践で活かし



新規採用事務職員の皆さん

ていきたい。」、「実際に配属されて、同じ事務組織の中でも大学と病院の違いを実感した。」といった感想がありました。

なお、毎年4月に行われる新規採用職員研修では、事務職員・看護職員・医療職員が合同で本学における基礎知識などについての研修を受講しますが、昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大を防止する観点から、ホームページ上での資料閲覧とアンケート回答による研修受講となりました。

令和4年度新規採用職員ビジネスマナー研修実施

令和4年4月12日（火）及び13日（水）大学本館たちばなホールにおいて、令和4年度新規採用職員を対象とした、看護職員・医療職員・事務職員合同のビジネスマナー研修が実施され、149名が参加しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、日程を2日間（各日同内容）とし、各日の受講人数を全体の半分に分けたため、出席者が適切な距離を保ったままペアワークを行うことができ、コロナ禍においても実践的な研修が実現できました。

研修では、知識、技術、人間性という三つの観点からプロフェッショナルとして必要なものを考え、常語を敬語に言い換える変換演習や電話対応のロールプレイを行い、接遇用語を実践して習得することを目指しました。



ペアワークに取り組む参加者たち

受講者からは、「社会人としての自己の立ち振る舞いやマナーを振り返り、改善することでより信頼してもらえるようにしていきたいと感じた。」「ロールプレイが多く、楽しく学ぶことができた。」「講師が熱意を持って講義をしていて、とてもいい研修だった。」などの感想がありました。

令和3年度新規採用職員1年フォロー研修実施

令和4年5月18日（水）午後3時から午後4時30分まで大学本館701会議室において、事務部門の令和3年度新規採用事務職員を対象に、配属後1年を一つの区切りとしたフォロー研修が実施されました。

今回の1年フォロー研修は、これまで数々の研修において受講者としての立場しか経験したことがなかった入職2年目となる自身が、初めて講師として演台に立ち、プレゼンテーション発表を行うという形式で行われました。令和4年2月に「令和4年度入職の新規採用事務職員に対し、2年目の先輩として伝えたいこと、教えてあげたいことを発表する」という課題が通知され、約3か月の準備期間が設けられました。

研修当日は、令和4年度新規採用事務職員、各部署における上長及び先輩職員など約20名が聴講する中、各自準備したスライドを用いた発表が行われました。同年度に採用された職員だけでなく、上司や後輩職員に囲まれ、温かな雰囲気での研修が始まり、



入職2年目の皆さん

プレゼンテーションでは、各自が自己紹介や自身の仕事を紹介し、1年の振り返りについて自信を持って個性溢れる発表を行うことができました。

プレゼンテーションに関して発表者は、「新規採用職員の立場を意識する」や「スライドの文字数や情報量が多くなるようにする」など講師側の気遣いとその労力への気づきが得られたとともに、「入職からの1年間で振り返る機会となった。」「普段の業務で関わることのない同期と交流することができた。」といったポジティブな感想がありました。

OJT研修「新人・後輩指導の基本スキル習得」実施

令和4年6月23日（木）大学本館701会議室において、事務職員を対象としたOJT（On the Job Training）研修「新人・後輩指導の基本スキル習得」が実施され、17名の事務職員が参加しました。

本研修は、令和4年度採用職員のOJT担当者に加え、OJTの経験はあるが改めて基本を振り返りたい職員やOJTは未経験だが今後のために知識を習得したい職員向けに実施されました。

参加者を4～5人の四つのグループに分け、講義及びグループワークの形式で新人指導のコツを学びました。具体的なシチュエーションを想定したグループワークを実施し、より実践に近い状況での指導方法や注意点が共有されました。

受講者からは、「自分が新人だった頃を思い出し、



グループワークの様子

相手の立場に立って指導していきたい。」「実践できていない事項を今後活かしていきたい。」「現在はOJT担当者ではないが、後輩ができた際には学んだ内容を取り入れてみたい。」などの感想がありました。

【高大連携事業】

総合学術情報センター図書館の利用

総合学術情報センター（図書館部門）では、愛知県立長久手高等学校と愛知医科大学との高大連携事業の一環として、令和元年度から長久手高等学校の生徒及び教職員の学習のために各種サービスを提供しています。学術資料の閲覧・複写・貸出、閲覧席の利用のほか、医療系データベースの検索、電子ブック・電子ジャーナルを閲覧することができます。

令和4年4月20日（水）には、医療看護コース第

2学年の生徒26名を対象に、司書による図書館利用ガイダンスが実施されました。館内を巡りながら、資料の探し方や施設の利用方法など、入門的な説明が行われました。

令和元年度の入館者数は23名でしたが、令和3年度には141名まで増加し、本年度も学習の場として図書館を積極的に活用していただくことを期待しています。

教授就任インタビュー



救命救急科・教授／高度救命救急センター長

わたなべ えいそう
渡邊 栄三

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

令和4年6月1日付で、愛知医科大学病院救命救急科・教授、高度救命救急センター長を拝命しました。よろしくお願い申し上げます。

私は千葉大学医学部を卒業し、平澤博之名誉教授が主宰されていた同附属病院救急部・集中治療部に入局し、医師、そして、研究者としてのマインドを叩き込まれました。その後、同大学分化制御学の徳久剛史前学長の下で基礎医学を学び、重症患者の遺伝子多型に関するテーマで学位を取得しました。そのことも、臨床現場で私がPrecision Medicineを重視する礎となっています。エビデンスも重要ですが、侵襲時生体反応や臨床経過は、患者さんによって様々であり、思いがけない経過を取ることも稀ではありません。ERでの蘇生治療からICUでの集中治療管理まで、シームレスに科学的根拠に基づいた「Academic Critical Care」を実践し、一人でも多くの救急患者さんの救命に向けて、臨床・研究・教育に全力で取り組みたいと考えております。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

ER/ICUで目の当たりにした、スピーディーな対応を要求されるダイナミックな重症病態への対応に魅力を感じたことがきっかけです。救急集中治療の主目的は、重症患者の生理的環境を、各病態に即した最適な状態にいち早く持ち込み、そして、維持することにより、原因疾患の治療と回復を図ることと考えられます。そのために、研修医の頃から、各種モニタリング装置や人工補助療法を駆使しながら、各患者さんにtitration therapyを行い、病態の改善を目指して一喜一憂してきました。救急集中治療領域では、行った治療が比較的すぐに結果として現れますが、個々のケースへの診断・治療が良い転帰に繋がることを励みにやってきて、いつの間にか、20年以上の年月が経ちました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

これからの医療は、チーム医療なくしては成り立ちません。そのチームの中で協調性をもって、またリーダーシップを発揮していけるように、講義や実習のみならず、部活動など課外活動でも、チーム・ビルディングを多く経験しておくとう良いと思います。救急集中治療領域では、特に、その傾向が顕著であり、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、MSWなど、multidisciplinaryなプロ集団が「all for patients」で日夜取り組んでいます。



千葉マリン・スタジアムにて
(郷に入れば郷に従い、次はバンテリンドーム ナゴヤ
(旧ナゴヤドーム)に降り立ちます。)

医学部長・看護学部長 所信表明

令和4年7月13日（水）午後5時45分から、大学本館3階301講義室において、笠井謙次医学部長及び坂本真理子看護学部長による所信表明が、対面とオンラインによるハイブリット型の講演会形式で実施されました。

始めに、笠井医学部長から、所信表明として医学教育、研究、情報発信の三つのカテゴリーに分けて方策や意気込みが述べられました。中でも医学教育については、本学が目指す医師国家試験合格率やストレート卒業率について提示され、カリキュラム・試験の見直しや学修態度・学生の意識変革の重要性が強調されました。

続いて、坂本看護学部長から、所信表明として質の高い教育を提供するための教員の教育力・研究力向上の推進、看護学部教育課程における教育改革の推進、看護学研究科における教育改革の推進及び医学部・愛知医科大学病院・地域関連機関との連携強化による教育環境の整備の四つのカテゴリーに分けて方策や意気込みが述べられました。中でも看護学部教育課程における教育改革の推進として、日本看



笠井医学部長



坂本看護学部長

護学教育評価機構による看護学教育評価（令和5年度）受審、看護学研究科における教育改革の推進として、博士課程（DNPを含む）設置検討を含んだ中長期計画策定の重要性が強調されました。

両学部長の所信表明に対して、祖父江元理事長を始めとする多数の出席者から質問やコメントがあり、両学部長が目指す学部運営への理解が深まりました。



祖父江理事長

疼痛医学講座設置

医学部に令和4年7月1日付けで、集学的な疼痛医学の教育・研究・診療を支える力を備えた「疼痛医学講座」が設置されました。

講座設置に当たり、初代教授に就任された牛田享宏教授からは、「痛みは患者を苛ませる大きな要因であり、古くから重要な治療対象として様々な診療科で取り扱われてきました。しかし、現代の研究では長引く痛みで苦しむ患者さんの多くは、身体の神経・筋・骨格・内臓メカニズムや精神・心理社会的な要因が複雑に関連しあって難治化・慢性疼痛化していることがわかっています。本学では平成14年より他学に先駆けて『(旧)学際的痛みセンター』を

設立し、このような複雑な病態に対する研究や治療法の開発を診療科横断的に進め、国内のトップ研究施設としての役割を担ってきました。また、その診療部門である本院疼痛緩和外科・いたみセンターにおいては、本学の疼痛医療の実践に永く貢献して参りました。今回、旧学際的痛みセンターで開発してきた疼痛医療を更に発展させ、それを次世代の疼痛医療を担う医師や医学生に引き継ぐための教育的役割を担うための部局として、発展的に疼痛医学講座に改組し、永続的にこの分野の教育・研究・診療の中核施設として貢献していきたいと考えています。」とのコメントがありました。

文部科学副大臣の本学医学教育視察及び意見交換会の実施

令和4年7月15日（金）に池田佳隆文部科学副大臣始め文部科学省高等教育局医学教育課の伊藤史恵課長，降旗みを医学教育係長，鴨志田暁弘文部科学副大臣秘書官が来学し，本学の医学教育の現状などを視察されました。

始めに，祖父江元 理事長・学長からのあいさつに続き，笠井謙次医学部長から本学の医学教育の取り組みや医学部が進めるカリキュラム改革等について紹介があり，活発な意見交換が行われました。

その後，1学年次等の医学部講義風景やシミュレーションセンターで「スマートインフィル」の活用事例，5学年次生が本院で行っている臨床・クラークシップなどを視察し，本学の特色ある活動を実際に見ていただく貴重な機会となりました。

また，学生との懇談時間も設け，コロナ禍における学生生活や学修環境などについて，学生から様々な意見や感想が出され，懇談は大いに盛り上がりました。



シミュレーションセンターでの視察の様子



医学部学生との懇談の様子

令和4年度医学部解剖慰霊祭挙行

医学部解剖慰霊祭は，毎年5月初旬頃に行われる本学の最も重要な行事の一つであり，系統解剖・病理解剖の対象となられた故人のご冥福をお祈りしています。

令和4年度の医学部解剖慰霊祭は，新型コロナウイルス感染症の持続的な感染対策が求められている状況の下，令和4年5月9日（月）覚王山日泰寺において，感染のリスクを減らすための措置を講じた上で，大学関係者のみが参加する規模縮小形式にて厳かに執り行われました。本学からは，笠井謙次医学部長，解剖学講座の内藤宗和教授及び病理学講座の中村律子講師を始めとする関係教職員5名が参列しました。

今年度の慰霊祭では，令和3年4月から系統解剖と病理解剖にご遺体を供せられた74柱の御霊を新たに合祀し，総数5,289柱の御霊に対し，法要が営まれました。



献体者のご冥福を祈る本学参列者

午後2時から導師の入堂により祭儀が始まり，笠井医学部長が慰霊の辞を述べ，御霊に深い感謝と尊崇の念を捧げました。この後，広い本堂に僧侶の読経が響きわたる中，笠井医学部長始め参列者一人ひとりが焼香して献体者のご冥福を祈り，つつがなく慰霊祭が終了しました。

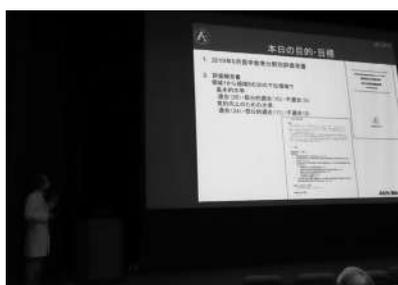
令和4年度医学部FD開催

本年度1回目の医学部FD（ファカルティ・デイベロップメント）は、令和4年6月9日（木）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、「医学教育分野別評価の年次報告書作成」をテーマとして開催されました。分野別評価に関連する学内准教授以上の教員を対象とし、66名の先生方が参加されました。

始めに、祖父江元 理事長・学長及び笠井謙次医学部長からあいさつが述べられ、薬理学講座の岡田尚志郎教授から本学が取り入れるべき試みなどについてお話しがありました。続いて、医学教育センターの早稲田勝久センター長からは、年次報告書作成に関する概要説明があり、その後、参加者が領域毎に各講義室へ移動し、8月に提出する年次報告書の素案を作成しました。

また、令和4年7月12日（火）午後5時30分から大学本館303講義室において、新潟大学の磯部真倫先生をお迎えし、「Withコロナ時代の臨床実習の在り方」をテーマとした講演会が第2回医学部FDとして開催され、対面・Web併せて77名の先生方が参加されました。磯部先生の専門である産婦人科を例に、外科系の臨床実習の工夫を紹介していただきました。新潟大学産婦人科では研修医を含め屋根瓦式教育体制が構築されており、学ぶべき所が多々ありました。また、「教育は、やって当たり前」という方針も紹介していただき、今後の本学における臨床実習の改善に向け、参考になったことと思われま

す。今後も様々なテーマによるFDを開催予定のため、皆さまのご参加をお待ちしています。



早稲田センター長による説明の様子



年次報告書の素案作成に向け
議論する本学教員



磯部先生による講演の様子

令和4年度臨床実習後OSCE実施

今年度の客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）は、昨年に引き続きコロナ禍のため感染対策を行いながらの実施となりました。令和4年7月16日（土）に、6学年次生を対象とした臨床実習後OSCE（Post-CC OSCE）が実施され、受験生は共用試験実施評価機構から指定された課題3課題と独自課題3課題の合計6課題に対して、これまでに臨床実習で得た知識と経験を十二分に発揮して試験に臨みました。

試験の実施に当たっては、受験生と評価者及び模

擬患者との距離の確保、室内の定期的な換気、消毒の徹底が行われました。全国的なCOVID-19の拡大に伴い、評価者が濃厚接触者となり急遽代替の評価者を調整する必要があったことなど、運営スタッフはコロナ禍における試験実施の難しさを痛感しました。本学のOSCEは、多くの職員が運営スタッフのみならず、模擬患者としても協力していただくことで、指定された課題数を1日で実施することができています。改めて皆さまのご協力に感謝致します。

令和4年度看護学部キャンドルセレモニー挙行

令和4年6月11日（土）午前10時から、「令和4年度看護学部キャンドルセレモニー」が2学年次生を対象に挙行されました。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学生のみのお席となりましたが、徹底した感染対策を講じることにより、大学本館たちばなホールを使用しての開催と致しました。

始めに、祖父江元 学長が、「患者さんからの学び、医療チームからの学び、先輩看護師からの学び、そして、学んだことを自分自身で考えることにより、毎日が発見と成長の日々になるので、ぜひ頑張ってください。」と式辞を述べられました。

続いて、坂本真理子看護学部長から、「皆さんの学びは、多くの関係者の協力のもとに成り立っていること、看護は一方的なものではなく相手との関係の中で実践するということが、また、自身の健康を自身でコントロールしていくことを常に念頭において学んでほしい。」とメッセージが贈られました。

その後、学生代表13名がナイチンゲール像の灯台を燭台に受け継ぎ、「私の目指す看護師像」を発表した後、一斉に全ての学生へ灯火を引き継ぎました。続いて、学生実行委員が作成した動画「誓いの言葉」が放映され、「それぞれが抱いた想いや看護師になるという決意を忘れずに、まずは目の前の実習を意味あるものにして、自分の看護師像に近づくことを目指していきましょう。」との言葉で締めくくられ、厳粛な雰囲気の中、キャンドルセレモニーを終了しました。



式辞を述べる祖父江理事長



セレモニーの様子

キャンドルセレモニー実施後の学生アンケートでは、「看護学を学ぶ者としての自覚・責任感を持つことができました。」との回答が多く得られ、「看護学専門科目を本格的に学ぶ前に、自覚と責任を持つとともに協調性を育み、将来看護専門職者となるための決意を新たにする。」というキャンドルセレモニーの趣旨が十分に理解されたセレモニーとなりました。

令和4年度看護学部臨床教授等の称号授与

令和4年5月25日（水）午前9時から看護部長室において、本院看護部の対象者（臨床教授3名，臨床准教授4名，臨床講師4名）に対し，坂本真理子看護学部長から令和4年度看護学部臨床教授等の称号（辞令）が授与されました。また，同日午前9時30分からは，看護学部長室において本院NP部の対象者（臨床准教授2名）に対し，坂本看護学部長から同じく称号（辞令）が授与されました。

この制度は，臨床教育の指導体制の充実を図ることを目的とし，看護学部における臨地実習に協力する医療・保健施設等の看護師，保健師及び助産師に称号を授与しています。

看護学部では，今後も関係部署と連携・協働し，豊かな人間性と確かな看護実践能力を備えた看護職者の育成を進めて参ります。



称号授与された看護部の皆さんとの記念撮影



称号授与されたNP部の皆さんとの記念撮影

令和4年度看護学部Web個別相談会実施

令和4年7月16日（土）にZoomを使用した看護学部Web個別相談会が実施されました。この相談会は，大学受験を控える高校生等が本学の在学生及び教員に授業や大学生活等について相談をすることで，大学の雰囲気や魅力をより深く知っていただくことを目的に実施し，本学の受験を考えている県内外の方々の参加がありました。

当日は，在学生には入試対策や本学に入学した理由について，教員には実習や就職・進学についての質問が多くみられ，在学生は参加者の質問に答えながら，自分の体験を踏まえたアドバイスや試験勉強へのエールを送っていました。

参加者からは，「質問がしやすく，対面よりも緊張せずに話すことができて良かったです。」，「コロナ禍で対面イベントへの参加が難しい中でも，Zoomで顔を見ながらお話ができたので，疑問点だけでなく，相談してみないと分からない雰囲気も知



Zoomで個別相談を受ける学生

ることができて良かったです。」などの感想がありました。

今回，Zoomのメリットを活かした有意義な企画となったため，広報活動の一つとして，今後の開催も検討して参ります。

看護学部マナー・メイク講座の実施

令和4年6月28日(火)午後1時10分から、看護学部2学年次生を対象に「マナー・メイク講座」が行われました。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、遠隔講義形式で実施し、学生は自宅において受講しました。

始めに、山中真学生委員会委員長が、「基礎看護学実習を前に、看護専門職業人の基本的な態度を身につけるため、社会人としてのマナーやメイク方法を学び、ここで学んだことを今後の実習や就職活動等に活かしてほしい。」と述べられ、次に、株式会社マイナビの講師から、第一印象(身だしなみ・あいさつ・言葉遣い)の重要性、患者・指導者の方とのコミュニケーションのポイント、SNSを利用する際には常に看護倫理と守秘義務を意識する必要があることなどについての講演が行われました。

続いて、株式会社POLAビューティーアドバイザーの講師から、医療現場に相応しい好印象を与えるスキンケア・メイク等について、実践を交えた講演を行っていただきました。朝と夜でのスキンケア

方法の違いについての紹介から始まり、化粧水・乳液・日焼け止めの使い方等について学びました。その後、メイクモデルさんに対して実際にメイクを施すことで化粧道具の基本的な使い方を理解し、柔らかい印象を与えるメイクについて紹介していただくことで、好感を持たれる自然で魅力的なメイクを学ぶことができました。

実施後に行ったアンケートでは、「マナーを身につけることは実習や社会に出た時の礼儀として重要なことなので、今回マナーについてしっかり学べて良かったです。」「社会に出るとマナーは当たり前と言われるが、マナーを一から学ぶ機会はありませんので、このような機会を設けていただいたことに感謝しています。」「スキンケアやメイクなど今まではそこまで意識していなかったのですが、正しい方法を知ることができて良かったです。」などの意見が寄せられ、将来看護職者として働く学生にとって、とても良い機会になったことと思われます。

看護学部就職支援講座開催

令和4年6月30日(木)午前9時30分からC棟2階C201講義室において、3学年次生を対象に「就職支援講座」が3年ぶりに対面形式にて開催されました。

始めに、山中真学生委員会委員長が本講座の主旨等を述べられ、その後、ナース専科の講師から、厳しくなりつつある看護職の就職状況の中で打ち勝っていくために必要なマナーや心構え、面接時の印象管理、オンラインによる就職活動のための事前準備等についてお話しいただきました。また、講座の中では、お辞儀や着席の仕方など基本的な所作を実践しながら確認しました。

実施後に行ったアンケートでは、「就職先を選ぶために大切なことやマナーを学ぶことができた。」「看護学生数は増加しているが、採用数は増加して



講座を受講する学生たちの様子

いないという現状を知ることができた。」「実際に作法を実践することができて良かった。マナーや所作は日常に取り入れていきたい。」などの意見が寄せられ、就職試験に臨む学生にとって、十分な心構えと対策を講じるための貴重な講座となりました。

看護学研究科特別講義開催

「ポジティブ心理学入門」

令和4年5月14日（土）午後1時30分から、関西福祉科学大学心理科学部教授の島井哲志先生をお招きし、「ポジティブ心理学入門～自分の強みを知って、周囲の強みを活かす～」というテーマで、対面とオンラインのハイブリッド形式による大学院特別講義が開催されました。

島井先生には、ポジティブ心理学という心理学分野の基礎的な知識と、その知識を活かした臨床場面での活用方法について講義いただくとともに、ポジティブ心理学を用いた最新の研究についても紹介いただきました。講義を通じて、最新の研究知見と臨床現場への応用など、明日すぐに使える内容を限られた時間の中で学ばせていただきました。

参加者からは、「自身の強みの活かし方を学ぶことができました。」「ケアの場面で活用したいと思



島井先生による講義の様子

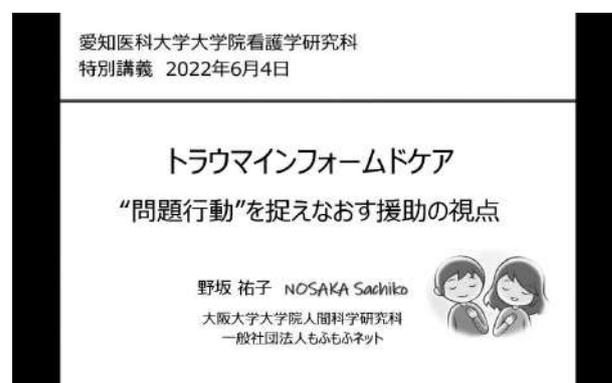
います。」などの感想が多く寄せられました。今後、皆さまがポジティブ心理学講演の内容を職場での応用や自身の研究の組み立てなどに活用されることを期待致します。

「トラウマインフォームドケア」

令和4年6月4日（土）午後1時30分から、大阪大学大学院人間科学研究科准教授の野坂祐子先生をお招きし、「トラウマインフォームドケア（TIC）：“問題行動”を捉えなおす援助の視点」というテーマで、オンラインによる大学院特別講義が開催されました。

野坂先生には、“問題行動”の背景にトラウマの影響・再演があるかもしれないと捉え直す、正そうとするのではなくまず分かろうとするTICの基本をお話いただき、約30分参加者からの様々な質問に丁寧に答えていただき、概念・理論だけでなくケアの実際についても理解を深めることができました。

参加者からは、「トラウマの再演は支援者にも起こり得ることで、組織的なケアの必要性を感じました。」など、ケア対象だけでなく支援者側のケア・セルフケア、組織作りといった様々な次元でのTIC



活用について感想がありました。また、「共感するには知識が必要。」「見えているものも見ようとしなければ、見ることもできない。」「知っているかいないかで、（ケアに）天と地ほどの差が生まれる。」などの声も多く、ケアへの理論的知識の必要性について再認識する機会となりました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 看護研究支援セミナー【基礎編・実践編】開催

令和4年6月18日（土）及び7月9日（土）の2日間にわたり、両日午後1時から看護学研究科の心光世津子教授による、令和4年度看護研究支援セミナー【基礎編・実践編】がオンラインにて開催されました。

第1回目は、基礎編「看護研究ことはじめ～研究を臨床に活かす～」と題し、看護研究はより良い看護に繋げていくために重要である一方、敬遠される場合もあるという現状を踏まえ、看護研究が業務改善や新たな取り組みへと繋がった事例が紹介されました。看護研究に取り組むための基礎として、看護研究とはどのようなものなのか、現場の疑問から研究の問いを見出すプロセス、研究の問いと研究デザインの関係などを具体例とともに説明され、初級者の方でも分かりやすい内容のセミナーでした。35名の参加者からは、「今更聞けないということも一から聞くことができた。」、「分かりやすい内容で、根拠を持った知識を習得することができた。」などの感想が寄せられ、大変好評なセミナーとなりました。

第2回目は、実践編「インタビュー調査の基本」と題し、質的研究のデータ収集で用いられるインタビュー調査の基本的な視点と考え方についてお話しいただきました。質の高いインタビューをするため



オンラインセミナーを行う心光教授

に必要な検討内容や倫理的配慮、インタビューデータの分析プロセスなど、具体的なインタビュー調査の進め方について丁寧に解説していただき、29名の参加者からは、「数年前からインタビュー調査で研究をしたいと考えていましたが、文献だけでは分からないことが多く困っていました。今回とても学びが多かったです。」、「心光先生の話し方や説明が聴きとりやすく、興味深く学べたので良かったです。質的研究をしてみたいと思いました。」など、多くの感想が寄せられ、初心者だけでなく、経験者にも研究を振り返り、発展させる契機となる学びの多いセミナーとなりました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 臨床看護セミナー開催

令和4年7月30日（土）に、「看護のためのフィジカルアセスメント～根拠に基づいた看護実践に活かす～」と題した臨床看護セミナーがオンライン形式で開催され、基礎から学び看護実践に活用できる内容を本学の教職員3名にご講義いただきました。全国の病院・医療施設から、幅広い経験年数の看護師110名が参加されました。

本セミナーは2部構成で、第1部「フィジカルアセスメント入門」では、周術期集中治療部の藤田義人教授から、フィジカルアセスメントに必要な病態生理、パルスオキシメーターの値を解釈するときの注意点等について丁寧に解説していただきました。第2部「看護実践におけるフィジカルアセスメント」は、第1部で学んだ病態生理を、根拠に基づいた看護実践に繋げる内容となっており、呼吸編として、看護部の上野沙織急性・重症看護専門看護師から視診のスキルや意図的に観察することの重要性等についてご講義いただきました。続いて、循環編として、NP部の森一直NP師長から循環メカニズムと観察をアセスメントに繋げる実践方法をご講義いただきました。

参加者からは、「病態生理についてゆっくり時間をかけて説明してくださり、難しいと思っていた内容でも理解することができた。」「改めて呼吸や循環についてのフィジカルアセスメントの方法について理解することができて良かった。」など、多くの



オンライン講義を行う藤田教授



左から、森NP師長と上野看護師

感想が寄せられました。看護実践上、患者さんの状態を理解するために非常に重要な呼吸と循環のアセスメントを基本から振り返ることで、様々な参加者の実践における基盤となり、明日から活用できる内容のセミナーとなりました。

国家試験日程のお知らせ

◆第117回医師国家試験

- ・試験日 令和5年2月4日(土)・5日(日)
- ・合格発表 令和5年3月16日(木)

◆第109回保健師国家試験

- ・試験日 令和5年2月10日(金)
- ・合格発表 令和5年3月24日(金)

◆第112回看護師国家試験

- ・試験日 令和5年2月12日(日)
- ・合格発表 令和5年3月24日(金)

医師の働き方改革講演会開催

令和4年7月27日(水)に大学本館711特別講義室において、医療法人社団白梅会理事の小林利彦先生をお招きし、「医師事務作業補助者の有効活用に向けて医療専門職が知っておきたいこと」をテーマとした医師の働き方改革講演会が開催されました。

講演会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、急遽Zoomによる配信併用となりました。講演会では、小林先生から「医師事務がやっても良い業務、やってはいけない業務」、「医師事務の活用方法」、「医師事務の教育・キャリアパス」など幅広い内容を分かりやすくご講演いただきました。

令和6年には医師の時間外勤務規制が始まります。そのために、医師の働き方改革を推進し、医師でなくてもできる業務は極力多職種にタスクシフトする必要があります。そのシフト先を担うキープレイヤーが医師事務です。今回の講演会は、医師事務



小林先生による講演会の様子

の位置づけ、必要性、役割を医師、看護師、コメディカルに理解していただく良い機会となりました。講演会後は、本学経営幹部と小林先生で懇談会を行い、医師事務補助体制や医師の働き方改革について意見交換が行われました。

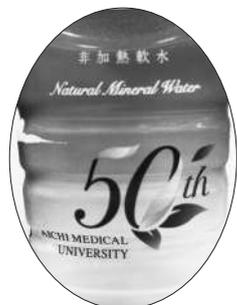
令和4年度オープンホスピタルの中止

オープンホスピタルは、一昨年度、昨年度と残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。今年度につきましても、未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見込まれないことから、安全を優先し、開催を中止とすることが決定されました。

来年度以降、開催が可能な情勢に落ち着きましたら、改めてご案内をさせていただきます。オープンホスピタルを楽しみにして下さる方々には申し訳ありませんが、ご理解ご協力いただきますようお願い致します。

愛知医大サービス株式会社 愛知医科大学創立50周年の関連事業

愛知医大サービス株式会社では、事業の一つとして愛知医大オリジナルグッズの企画、販売を行っております。様々なグッズの中でも人気が高いミネラルウォーターを今回はご紹介致します。



このミネラルウォーターは、奥長良川の深山の源泉から汲み上げた水を製品化したもので、ミネラル成分がバランスよく含まれた弱アルカリ性の軟水です。「とてもまろやかで美味しい」と好評で、利用者のリピーターも多いため、是非一度、ご賞味ください。

なお、今回は愛知医科大学創立50周年を迎えたことを記念したロゴマークをラベルにデザインしています。

また、愛知医科大学創立50周年記念事業として、令和4年9月末には、「スターバックスコーヒー愛知医科大学店」がオープン予定です。皆さまのお越しを心待ちにしております。



スターバックスコーヒー愛知医科大学店
完成予定の様子

お問合せ先

愛知医大サービス株式会社

立石プラザ3階事務室 内線：14131



臨床感染症学講座 三嶋 廣繁教授 日本化学療法学会 志賀 潔・秦 佐八郎記念賞受賞

臨床感染症学講座の三嶋廣繁教授【写真】が、令和4年6月3日（金）から5日（日）にかけて岐阜市の長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川にてハイブリッド開催された第70回日本化学療法学会総会において、「志賀潔・秦佐八郎記念賞」を受賞しました。

これは、「抗菌薬起因性dysbiosisにおいて *Clostridium butyricum* が腸内細菌叢を改変するメカニズムに関する研究」(*Clostridium butyricum* MIYAIRI 588 Modifies Bacterial Composition under Antibiotic-Induced Dysbiosis for the Activation of Interactions via Lipid Metabolism between the Gut Microbiome and the Hostを代表とする一連の研究)が感染症に対する化学療法の研究において、その進歩に寄与する優秀な研究業績の発表として選定されたものです。

なお、「志賀潔・秦佐八郎記念賞」は、化学療法の分野で大きな業績を残された、北里柴三郎門下の志賀潔（1870～1957:赤痢菌の発見）と秦佐八郎（1873～1938:サルバルサンの発見）の名を後世に永く伝え、益々の化学療法の発展を願って作られたものです。



受賞された三嶋教授からは、「この度、大変栄誉ある志賀潔・秦佐八郎記念賞（第33回）をいただき、身に余る光栄に存じます。これまで、嫌気性菌感染症を中心とした感染症・化学療法に関する研究に従事して参りまして、歴代の受賞者と比較して見劣りするかもしれませんが、この賞の名を汚すことのないよう、今後とも精進していきたいと考えています。なお、小職とともに本研究を支えてくれた、本学臨床感染症学講座を始め、感染症科、感染制御部、分子疫学・疾病制御学寄附講座のスタッフ、学外共同研究者の先生方、大学院生の皆さんに深謝致します。」との感想がありました。

臨床感染症学講座 浅井 信博講師 第96回日本感染症学会 総会・学術講演会 第4回Institut Mérieux-JAID Award受賞

臨床感染症学講座の浅井信博講師【写真】が、令和4年4月22日（金）及び23日（土）にWeb開催された第96回日本感染症学会総会・学術講演会において、第4回Institut Mérieux-JAID Awardを受賞しました。

これは、感染症診療や感染対策の分野に従事した年数が15年未満の医療スタッフが対象で、「本邦初のカルバペネム耐性菌のcase-control study」を行ったこと、誤嚥性肺炎への診療におけるセフトリアキソンの非劣性を、傾向スコア解析を用いて証明し、不要な抗菌薬治療の抑制に関する論文、国内外（本邦とアメリカ両方）のCOVID-19における臨床研究を遂行したことなどの感染症治療や感染対策に係る発表が感染症医療に大きく貢献したものと高く評価されたものです。

受賞された浅井講師からは、「この度は栄誉ある



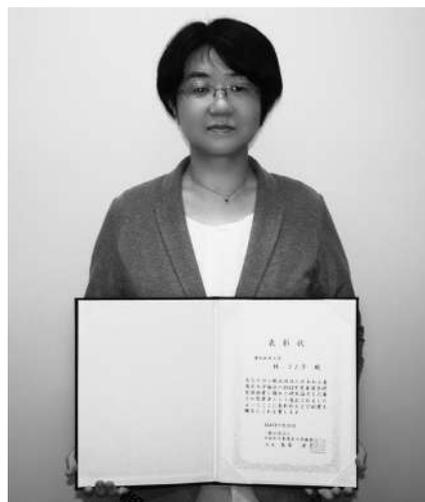
賞を頂戴し、大変光栄に存じます。選考委員会から評価いただいた研究の全てが到底一人では成し得ないもので、この受賞も皆さまのご指導・ご協力のおかげと感謝しております。これまで同様、臨床・研究・教育と一層邁進する所存です。今後ともご指導をよろしくお願い致します。」との感想がありました。

成人看護学 林 さえ子講師 一般社団法人日本私立看護系大学協会 2022年度看護学研究奨励賞受賞

成人看護学の林さえ子講師【写真】が、令和4年7月30日（土）に一般社団法人日本私立看護系大学協会から、2022年度看護学研究奨励賞を受賞しました。

これは、Supportive Care in Cancer誌に筆頭著者として掲載された、前立腺がん治療に伴う性機能障害にまつわる日本人男性の体験を治療方法ごとにインタビュー調査し質的に分析した論文「Sexual dysfunction associated with prostate cancer treatment in Japanese men : qualitative research」の意義が評価されたものです。

受賞された林講師からは、「この度、日本私立看護系大学協会による看護学研究奨励賞に与り光栄に存じます。皆さま方のご協力やご指導に深く感謝申し上げます。これからも、患者の性という難しい問題への看護に貢献できる知見を見出せるよ



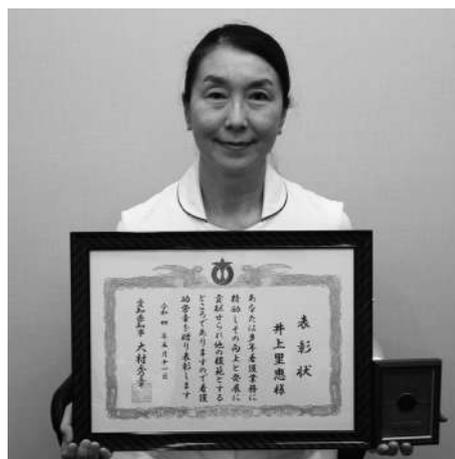
うに努力する所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻をいただけますと幸いです。」との感想がありました。

看護部 井上 里恵看護部長 愛知県看護功労者表彰受賞

看護部の井上里恵看護部長【写真】が、愛知県看護功労者表彰を受賞しました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞であり、令和4年5月11日（水）愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において開催された令和4年度愛知県看護大会の席上で、表彰式が行われました。

表彰を受けた井上看護部長から「この度は名誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。新卒で愛知医科大学病院に入職し、30年以上が経過しました。ここまで継続できたことは、看護部を始め病院の皆さまのご協力・ご指導の賜物だと深く感謝しております。特に、この3年間は新型コロナウイルス感染症と向き合い、看護部全体で困難を乗り越えてきました。看護職の皆さんに心から感謝します。また、今回の受賞に当たっては、令和2年度から看護機能連



携ネットワークシステムを構築し、地域全体の看護の質向上と看護の力で患者さんの暮らしを支えてきたことが評価されました。これからも、院内外の看護職の皆さんと力を合わせていきたいと思っております。」との感想がありました。

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



野澤 一貴

学位授与番号 甲第631号

学位授与年月日 令和4年7月14日

論文題目：「Association between HbA1c levels and diabetic peripheral neuropathy: A case-control study of patients with type 2 diabetes using claims data (ヘモグロビンA1cレベルと糖尿病性末梢神経障害の関連：レセプトデータベースを用いた2型糖尿病患者のケースコントロール研究)」



上田 博子

学位授与番号 乙第418号

学位授与年月日 令和4年6月9日

論文題目：「Corticotrophin-releasing hormone stimulation tests in late-onset circulatory collapse (晩期循環不全(LCC)に対する副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン(CRH)負荷試験)」

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介致します。(敬称略)



サルマ ウメ
Salma Umme

国 籍：バングラデシュ

現 職：真核生物遺伝子発現構造
機能研究所リサーチアシスタント

受入講座：救命救急科

研究期間：R4.6.1～R5.3.31(10か月)

研究課題：外科的侵襲下、特に敗血症時における自然免疫関連遺伝子発現



ドミニカ カニコフスカ
Dominika Kanikowska

国 籍：ポーランド

現 職：ポズナン医科大学准教授
受入講座：医学部IR室

研究期間：R4.7.15～R4.8.31(2か月)

研究課題：生活習慣と学習意欲の国際間比較



シュウ セイ
周 静

国 籍：中国

現 職：ジャムス大学附属第一病院
小児科医師

受入講座：小児科学講座

研究期間：R4.6.15～R5.3.31(10か月)

研究課題：小児てんかんの遺伝学的解析

研究助成等採択者

◇公益財団法人笹川保健財団

研究助成（2022年度）

・氏名 中村正子（看護学部・講師）
 研究題目 看看連携から考える，我が国の在宅看護活動における難治性がん患者と家族に対する緩和ケアの学習プログラムの構築への実践とその基礎調査
 助成金額 350,000円

◇公益財団法人武田科学振興財団

2022年度医学系研究助成（精神・神経・脳領域）

・氏名 伊藤卓治（内科学講座（神経内科）・特別研究助教）
 研究題目 シングルRNA-seqによる運動ニューロン疾患の新規病態関連因子探索システムの構築
 助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人喫煙科学研究財団

令和4年度（2022年度）研究助成

・氏名 山村彩（生理学講座・講師）
 研究題目 低酸素肺血管障害からアプローチする慢性呼吸器疾患の分子機構の解明
 助成金額 500,000円

◇公益財団法人武田科学振興財団

2022年医学系研究助成（基礎）

・氏名 福重香（解剖学講座・助教）
 研究題目 肺胞をターゲットとしたsiRNA・ヒアルロン酸含有吸入用マイクロ粒子製剤の開発－COPD治療の実現に向けて－
 助成金額 2,000,000円

◇Institut Mérieux

Young Investigator Award（若手研究者賞）

・氏名 浅井信博（臨床感染症学講座・講師）
 助成金額 10,000ユーロ

令和4年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数（件）	申請金額（千円）
新学術領域研究（研究領域提案型）	1	3,000
基盤研究（A）（一般）	1	20,900
基盤研究（B）（一般）	13	99,812
基盤研究（C）（一般）	124	214,252
挑戦的研究（開拓）	1	7,600
挑戦的研究（萌芽）	11	22,205
若手研究	49	72,077
学術変革領域研究（B）	1	21,000
研究活動スタート支援	1	1,500
合計	202	462,346

※令和4年7月31日時点での数字を掲載

※申請金額は令和4年度の申請額

令和4年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和4年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	武内恒成 医学部 生物学, 教授	2,200 (継続)	660	人工シナプスコネクターによるシンギュラリティシナプスの人為的構築とその制御
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	2,300	690	人為的シナプスコネクトと神経再編の環境制御による超適応機構の解析と創出
基盤研究(B) (補助金)	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授	(繰越)	0	疾患iPS細胞を活用した液性因子による運動ニューロン疾患の早期病態解明
〃	小林孝彰 医学部 外科学(腎移植外科), 教授	3,900 (継続)	1,170	治療から予防へ：エピトープ/パラトープ解析に基づく革新的免疫制御法の創出
〃	渡辺秀人 分子医科学研究所 教授	4,500 (継続)	1,350	炎症と腫瘍の組織改築：プロテオグリカンとその分解産物を介した細胞間クロストーク
〃	武内恒成 医学部 生物学, 教授	4,100 (継続)	1,230	新規人工シナプスコネクターと再生環境整備による超回復－神経再生への新規治療展開－
〃	井上真輔 医学部 運動療育センター, 准教授(特任)	7,900 (継続)	2,370	ホルモンの変調に起因する運動器の痛みを解明する多面的集学研究
〃	林櫻松 医学部 公衆衛生学, 教授(特任)	4,800 (継続)	1,440	GWASで同定した新規膀胱がん感受性遺伝子GP2に関する分子遺伝疫学研究
〃	菊地正悟 医学部 公衆衛生学, 教授	7,800 (継続)	2,340	分子疫学研究による胆のうがんリスク要因の解明
〃	都築忍 医学部 生化学, 教授(特任)	3,900	1,170	隠れドライバーから見た、難治性リンパ性白血病の成立・維持機構の解明
〃	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授	3,600	1,080	疾患iPS細胞を用いた神経筋接合部を標的とした運動ニューロン疾患の病態解明
〃	伊藤清顕 医学部 内科学(肝胆腸内科), 教授(特任)	4,800	1,440	B型肝炎ウイルス侵入機構の解明と侵入阻害剤による感染制御
〃	内藤宗和 医学部 解剖学, 教授	3,200	960	超微細気泡を用いた虚血再灌流障害の軽減方法の確立
特別研究員奨励費 (補助金)	岡田梨奈 特別研究員(RPD)	1,200	360	iPS細胞由来成熟運動ニューロンを用いた神経変性疾患の病態解明
基盤研究(C) 一般(基金)	犬飼洋子 医学部 生理学, 講師	(再延長)	0	辛味性(口腔内TRPV1活性化)発汗による選択的脳冷却の検討：熱中症予防への応用
〃	乾匡範 医学部 感染・免疫学, 講師	(再延長)	0	小胞体膜分子Nogoによる病原性自己抗体産生の新たな制御機構の解明
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学, 講師	(再延長)	0	グリアに着目した急性脳炎・脳症の病態解明と新規治療法の開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) (一般) (基金)	矢野智紀 医学部 臨床腫瘍センター, 教授	(再延長)	0	女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響: 新たな肺癌治療法の確立を目指して
〃	吉川和宏 研究創出支援センター 特務教授	(再延長)	0	子宮頸がんを発生させるHPVのE7蛋白を標的とした細胞内分子標的療法の開発
〃	三木研作 看護学部 統合生理学, 教授	(再延長)	0	顔から笑いを抽出するメカニズムの解明: 対人コミュニケーションへの応用を目指して
〃	小島徳子 看護学部 母子看護学, 講師	(再延長)	0	NICU入院児を持つ褥婦への足湯による乳頭・乳輪の状態の定量化と搾乳に及ぼす効果
〃	佐藤麻紀 医学部 I R 室, 講師	(再延長)	0	小児におけるLED光暴露がホルモンリズムおよび時計遺伝子の発現に及ぼす影響
〃	丹羽淳一 医学部 脳卒中センター, 教授 (特任)	(再延長)	0	疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発
〃	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	(再延長)	0	MERS-異常言動スペクトラムの分子生物学的基盤の解明
〃	津田雅庸 災害医療研究センター 教授 (特任)	(再延長)	0	敗血症におけるInnate Lymphoid Cellの機能解析
〃	梅村朋弘 医学部 衛生学, 講師	(再延長)	0	南アジアにおける大気汚染と健康障害: 都市と農村の比較およびマスク介入の効果
〃	鈴木孝太 医学部 衛生学, 教授	(再延長)	0	胎児期からのライフコースを考慮した, 生活習慣病発症に関わる要因の疫学的検討
〃	荻野朋子 看護学部 老年看護学, 准教授	(再延長)	0	写真療法が軽度から中等度の認知症高齢者のQOLに及ぼす効果に関する研究
〃	新井健一 医学部 疼痛緩和外科, 准教授	(延長)	0	腸内細菌叢の痛みの認知や調節機能におよぼすメカニズム
〃	仙石昌也 医学部 物理学, 准教授	(延長)	0	クラウドを利用した協働作業プロセスの定量的指標の開発と評価への応用
〃	藤内玄規 ALS治療研究開発部門 助教	(延長)	0	異常タンパク分解系を標的とした運動ニューロン疾患治療薬の開発
〃	猪子誠人 医学部 病理学, 講師	(延長)	0	上皮組織が階層分化する仕組みの細胞生物学的理解
〃	山崎達也 医学部 感染・免疫学, 講師	(延長)	0	自然免疫受容体に対するアゴニスト抗体のワクチンアジュバントへの応用
〃	池野正史 医学部 生物学, 准教授	(延長)	0	悪性グリオーマ治療の製剤化に向けたHSVtk遺伝子導入細胞株の構築
〃	牛田享宏 医学部 疼痛医学, 教授	(延長)	0	骨格筋再生による疼痛性瘢痕治療法の研究: 間葉系幹細胞の選択と細胞外環境の解析
〃	道勇学 医学部 内科学 (神経内科), 教授	(延長)	0	疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明
〃	中村亮一 医学部 内科学 (神経内科), 講師	(延長)	0	候補遺伝子アプローチによる筋萎縮性側索硬化症病態関連遺伝子の探索

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	高村祥子 医学部 感染・免疫学, 教授	(延長)	0	脂質会合タンパクの動脈硬化における役割解明と治療応用
〃	細川好孝 医学部 生化学, 教授	(延長)	0	胸膜中皮腫の予後改善を目指した診断マーカーと阻害化合物の探索
〃	松下宏 医学部 産婦人科学, 准教授	(延長)	0	若年女性に増加している子宮内膜症は閉経後骨粗鬆症の危険因子か?
〃	シバシバ 医学部 生化学, 講師	(延長)	0	ゲノム医療を目指した遺伝子異常に基づく悪性中皮腫発症機構の解明と治療標的の探索
〃	高橋伸典 医学部 整形外科学, 教授(特任)	(延長)	0	ヒアルロン酸レセプター CD44の断片化阻害による, 軟骨細胞の脱分化抑制効果
〃	三木篤也 医学部 近視進行抑制剤, 教授(特任)	(延長)	0	緑内障早期発見を目指した予測モデルに基づく光干渉断層計の新たな診断指標の確立
〃	瓶井資弘 医学部 眼科学, 教授	(延長)	0	虚血網膜の再灌流メカニズムの解明
〃	篠田かおる 看護学部 基礎看護学, 准教授	(延長)	0	医療器材及び医療従事者の手指の洗浄・殺菌に適したファインバブルの条件に関する研究
〃	白井裕子 看護学部 地域在宅看護学, 准教授	(延長)	0	野宿生活者が路上にとどまる理由-野宿生活の長期化に影響を与える野宿生活者の経験-
〃	笹倉寛之 医学部 生物学, 特別研究助教	(延長)	0	補酵素PQQで惹起されるレドックスシグナルによる細胞外マトリックスリモデリング
〃	山本恵美子 看護学部 基礎看護学, 准教授	500 (継続)	150	「介護安全」のための職種特性を活かした連携安全力の測定と教育実践
〃	心光世津子 看護学部 精神看護学, 教授	500 (継続)	150	学際的アプローチによる精神科病棟看護における自己決定支援の視点・要件の可視化
〃	山森孝彦 医学部 外国語, 教授	300 (継続)	90	英語医療面接評価で着目する定量的観察可能な要素の抽出とキャリアレーション動画作成
〃	藤田京子 医学部 眼科, 講師	100 (継続)	30	薄暮時や夜間における視覚障害者の行動評価と視機能との関連
〃	宮本淳 医学部 心理学, 准教授	400 (継続)	120	協働学習の心理的成果の測定
〃	幡野その子 分子医科学研究所 助教	1,100 (継続)	330	コンドロイチン硫酸による免疫応答制御: 糖鎖構造とシグナル伝達機構
〃	小西裕之 医学部 生化学, 教授(特任)	400 (継続)	120	臨床応用を目指す高効率・高精度なCRISPRノックイン法の確立
〃	尾張慶子 医学部 疼痛医学, 助教	100 (継続)	30	若年慢性疼痛における睡眠習慣の調査およびアセスメントツールとしての睡眠検査の検討
〃	山村彩 医学部 生理学, 講師	1,000 (継続)	300	肺高血圧症リモデリングに関与するカルシウム感受性受容体の新規下流シグナルの探索
〃	山口奈緒子 医学部 薬理学, 准教授	900 (継続)	270	ストレス応答の異常な持続的亢進をもたらす脳内機序の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	宮原弘明 加齢医学研究所 講師	400 (継続)	120	MELAS剖検脳を用いた脳卒中様発作部位のミトコンドリア機能解析
〃	上田博子 医学部 周産期母子医療センター, 助教	900 (継続)	270	副腎不全とグリアに注目した脳室周囲白質軟化症の病態解明と新規予防法の確立
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学, 講師	900 (継続)	270	MYRF遺伝子を起点とした発熱時言動異常の病態解明
〃	中出幸臣 医学部 内科学(肝胆腸内科), 教授(特任)	800 (継続)	240	コノフィリンによるNASH進展抑制機序の解明
〃	伊藤理 医学部 内科学(呼吸器・アレルギー内科), 教授	800 (継続)	240	機械感受性チャネルPiezo1とメカノセンサーを標的とした呼吸器疾患の病態解明
〃	中山享之 医学部 中央臨床検査部, 教授(特任)	1,000 (継続)	300	脂肪組織由来間葉系幹細胞-造血幹細胞における代謝経路解析: 抗加齢作用に注目して
〃	小松孝行 医学部 感染・免疫学, 准教授	800 (継続)	240	抗インフラマソーム能欠失型ウイルスを利用した新しいウイルス予防・治療法の研究
〃	加藤義郎 医学部 メディカルセンター, 教授(特任)	1,000 (継続)	300	糖尿病性多発神経障害の病態におけるATP感受性Kチャネルの役割の解明
〃	神谷英紀 医学部 内科学(糖尿病内科), 教授	700 (継続)	210	糖尿病性虚血性疾患に対する体性幹細胞由来分泌因子を用いた治療法の開発
〃	中村二郎 医学部 先進糖尿病治療学寄附講座, 教授	1,000 (継続)	300	糖尿病性多発神経障害におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明
〃	石山宏平 医学部 外科学(腎移植外科), 准教授(特任)	1,100 (継続)	330	ES/iPS細胞移植を見据えた複数回隣島移植後の免疫応答の解明と制御法の開発
〃	馬嶋剛 医学部 泌尿器科学, 准教授	500 (継続)	150	骨格筋由来マイオカインによる臓器連関を標的した排尿筋低活動の新規創薬研究
〃	林寿来 医学部 生理学, 講師	1,200 (継続)	360	加齢黄斑変性における再生療法に向けた細胞外小胞の機能解明
〃	古川洋志 医学部 形成外科, 教授	800 (継続)	240	細胞外微小環境の制御による次世代のリンパ節移植術の開発
〃	宮崎英隆 医学部 眼形成・眼窩・涙道外科, 准教授	400 (継続)	120	細菌由来メンブレンヴェシクルの高感度検出法の開発と慢性炎症性血管疾患からの同定
〃	青木瑠里 客員研究員	700 (継続)	210	「医学教育における学修支援の在り方についての探索的研究」
〃	川合紗世 医学部 公衆衛生学, 講師	900 (継続)	270	次世代へのピロリ菌感染防止による胃がん予防に向けた経済分析
〃	小川匡之 医学部 法医学, 准教授	800 (継続)	240	新規前処理法を用いた血中薬毒物LC-MS/MS分析法開発とその評価法の検討
〃	林さえ子 看護学部 成人看護学, 講師	700 (継続)	210	前立腺がん治療に伴う性功能障害を支える患者と家族への情報提供ツールの検討
〃	山本弘江 看護学部 母子看護学, 准教授	300 (継続)	90	子育て期の家族のメンタルヘルスに着目した支援とソーシャルキャピタルのあり方の検討

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	森田博之 客員研究員	400 (継続)	120	家族性先端巨大症罹患アスリートの発掘-新規原因遺伝子同定への学際的アプローチ
〃	伴野勸 医学部 感染・免疫学, 助教	1,200 (継続)	360	奇数鎖脂肪酸による骨代謝制御メカニズムの解明
〃	森下啓明 医学部 糖尿病内科, 講師	800 (継続)	240	CIDE-A - AMPK経路を標的とした小胞体ストレス関連疾患治療薬の探索
〃	都築豊徳 医学部 病理診断科, 教授	400 (継続)	120	前立腺導管癌の分子生物学的特徴及び治療予測への人工知能の応用
〃	鈴木進 研究創出支援センター 准教授	1,300 (継続)	390	制御性T細胞除去とTGF-b阻害剤を併用した新たながん免疫療法の開発
〃	藤川誠 医学部 薬理学, 助教	900 (継続)	270	血球エネルギー代謝解析による認知症早期診断の開発研究
〃	大西紘二 医学部 病理学, 講師	1,000 (継続)	300	がん患者の抗腫瘍免疫のアクセル機能を評価できる血液中バイオマーカー評価法の開発
〃	岩崎靖 加齢医学研究所 教授	1,000 (継続)	300	V180I遺伝性クロイツフェルト・ヤコブ病の発症と病態進展に関わる因子の解明
〃	丹羽淳一 医学部 脳卒中センター, 教授(特任)	1,300 (継続)	390	iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経筋シナプス機能の解析
〃	岡田尚志 医学部 薬理学, 教授	1,300 (継続)	390	うつ病での糖代謝異常の脳内調節機構におけるトロンボキサンA2の役割
〃	大宝和博 客員研究員	500 (継続)	150	転移性脳腫瘍の病態に適合した物理的・生物学的原体性の高い高精度光子線照射法の確立
〃	岩山秀之 医学部 小児科学, 講師	1,000 (継続)	300	MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発および政令指定都市を対象とした大規模解析
〃	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	1,000 (継続)	300	乳児期発症てんかんの遺伝学的解析に基づく精密医療の基盤構築
〃	垣田博樹 医学部 周産期母子医療センター, 講師	1,000 (継続)	300	低体温療法を中心としたグリアの機能制御による新生児脳障害の包括的な新規治療戦略
〃	石本卓嗣 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	1,000 (継続)	300	フルクトース代謝を標的とした糖尿病性腎臓病の病態解明と新規治療法の開発
〃	神谷圭介 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科, 助教(医員助教)	1,000 (継続)	300	腹膜透析におけるガス状伝達物質を用いた新たな腹膜劣化予防・治療法の開発
〃	伊藤恭彦 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 特命教授	1,200 (継続)	360	内皮細胞Glycocalyxをターゲットとした腎疾患の新たな治療戦略の確立
〃	太田明伸 医学部 生化学, 講師	800 (継続)	240	PBKを標的とする抗骨髄腫薬導出に向けた創薬プラットフォームの構築と分子機能解析
〃	高見昭良 医学部 内科学(血液内科), 教授	1,000 (継続)	300	ADAMTS13遺伝子多型ゲノム編集血管内皮細胞の作製と新規白血病治療法の探索
〃	恒川新 医学部 糖尿病内科, 准教授	1,300 (継続)	390	自己免疫性モノアミン合成障害による新規低血圧疾患概念の確立

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	永井尚子 分子医科学研究所 助	1,000 (継続)	300	視床下部へパラリン硫酸によるレプチンシグナル伝達制御機構の解明
〃	野田貴幸 薬剤師	1,000 (継続)	300	ヒト化マウスによるドナー特異的抗体産生免疫プロファイリングの解明と個別化医療
〃	矢野智紀 医学部 臨床腫瘍センター, 教授	600 (継続)	180	非喫煙者肺癌の浸潤増殖にエストロゲンが与える影響の解明: 新たな肺癌治療法の探索
〃	渡邊栄三 医学部 救命救急科, 教授	1,000 (継続)	300	敗血症病態における血小板減少症への補体系活性化の関与とその治療戦略の開発
〃	畔柳佳幸 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科, 助教	1,000 (継続)	300	非翻訳RNAに着目したCNI腎症早期発見システムの構築
〃	岩崎研太 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 准教授	1,100 (継続)	330	Indirectアロ反応T細胞の同定と坑ドナー抗体感知モニタリングへの応用
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授(特任)	1,300 (継続)	390	頸部リンパ節における腫瘍免疫環境の解明-免疫学的頸部郭清術の確立を目指して
〃	青山恵美 看護学部 感染看護学, 准教授	500 (継続)	150	医療施設内結核感染予防のための結核健診受検職員の継続支援システムの構築と臨床応用
〃	山幡朗子 看護学部 基礎看護学, 准教授	700 (継続)	210	地域包括ケアシステムにおいて外来看護師に求められるコンピテンシーの探索的研究
〃	山中真 看護学部 基礎看護学, 教授	900 (継続)	270	熟練看護師の聴診技術の可視化
〃	佐々木裕子 看護学部 在宅看護学, 准教授	600 (継続)	180	在宅でエンドオブライフを生きる訪問看護利用者への在宅スピリチュアルケアの明確化
〃	榊原伊織 医学部 生理学, 講師	1,200 (継続)	360	運動による転写制御の分子機構の解明
〃	出家正隆 名誉教授	700 (継続)	210	変形性膝関節症に対する水中運動による筋力強化は本当に有効か?
〃	小林孝 分子医科学研究所 助	1,100	330	へパラリン硫酸の糖鎖構造: iPS細胞分化シグナルの選択的制御
〃	佐藤元彦 医学部 生理学, 教授	1,200	360	G蛋白活性調節因子を標的とした治療の基礎検討
〃	佐藤啓 医学部 病理診断学, 講師	800	240	リンパ球豊富型およびリンパ球減少型古典的ホジキンリンパ腫の発生機構の解明
〃	村上秀樹 客員研究員	1,700	510	悪性胸膜中皮腫の分子病理診断パネルの構築と分子サブタイプ特異的マーカーの同定
〃	池野正史 医学部 生物学, 准教授	1,300	390	悪性グリオーマの遺伝子細胞治療に向けたヒト歯髄幹細胞の加工と製剤化
〃	熱田直樹 医学部 内科学(神経内科), 特命准教授	1,200	360	臨床ゲノム情報と結びついた神経病理解析による筋萎縮性側索硬化症の多様性解明
〃	笹倉寛之 医学部 生物学, 特別研究助教	1,300	390	人為的シナプス架橋による失われた中枢神経機能の回復

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (一般)(基金)	中村亮一 医学部 内科学(神経内科), 講師	1,100	330	筋萎縮性側索硬化症のmissing heritabilityに関わる遺伝子の探索
〃	伊藤卓治 医学部 内科学(神経内科), 特別研究助教	1,300	390	シングルセルを活用した運動ニューロン疾患の新規病態関連因子探索システムの構築
〃	北川晃 医学部 放射線科, 講師	1,200	360	四肢の動静脈奇形に対する4D画像を用いた血流解析による治療効果判定法の確立
〃	増潤悟 医学部 生理学, 教授	1,300	390	不眠を伴う睡眠時無呼吸症候群(COMISA)のモデル動物作成と解析による病態解明
〃	細川好孝 医学部 生化学, 教授	1,200	360	癌抑制遺伝子BAP1を標的とした胸膜中皮種新規阻害薬の開発
〃	伊藤真弓 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科, 助教	800	240	内皮細胞障害に着目したCKD血管石灰化メカニズムの解析と標的治療の確立
〃	花村一郎 医学部 内科学(血液内科), 教授(特任)	1,300	390	ゲノム編集を利用したKRAS変異骨髄腫に対する新規治療標的薬の探索
〃	萩原真生 医学部 分子疫学・疾病制御学寄附講座, 准教授	400	120	酪酸産生菌によるウイルス性呼吸器感染症に対する治療効果の検討とその作用機序の解明
〃	乾匡範 医学部 感染・免疫学, 講師	1,100	330	TLR4を標的とした新規免疫賦活効果の分子基盤の解明と感染症予防への応用
〃	姫野龍仁 医学部 内科学(糖尿病内科), 講師	1,300	390	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関の異常と再生機構の破綻
〃	畑山直之 医学部 解剖学, 准教授	800	240	移植臓器の体外治療を目指した新たな生理活性ガス送達技術の確立
〃	中野正吾 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授	1,600	480	ICG蛍光マーキングによる非触知乳癌に対する手術ナビゲーションシステムの開発
〃	シバスタラン カルナン 医学部 生化学, 講師	1,000	300	NF2/CDKN2A欠失型中皮腫における脂質代謝異常を標的とした分子標的薬の開発
〃	藤田義人 医学部 周術期集中治療部, 教授	1,300	390	RNAiでの脳水チャネル調節と低酸素プレコンディショニングによる脳神経保護効果
〃	加納秀記 医学部 救急診療部, 教授	2,000	600	急性呼吸促進症候群に対する造血幹細胞移植: 炎症制御と血管再生の試み
〃	宮地茂 医学部 脳神経外科学, 教授	2,000	600	脳血管内治療における遠隔手術支援ロボットの開発
〃	大須賀浩二 看護学部 病態治療学, 教授	1,200	360	脊髄損傷後の歯髄幹細胞治療の作用機序の解明と更なるadjuvant治療の確立
〃	池本竜則 医学部 整形外科, 講師	1,600	480	免疫調整薬による変形性膝関節症の重症化予防効果の検証: 動物モデルによる基礎研究
〃	瓶井資弘 医学部 眼科学, 教授	1,100	330	網膜神経細胞保護作用を介した新たな網膜色素変性治療の検討
〃	早稲田勝久 医学部 医学教育センター, 教授	900	270	臨床実習評価システムの包括的再検討と獲得する診療技能への影響: 良医育成を目指して

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究 (C) (一般) (基金)	黒澤 昌洋 看護学 学部 臨床実践看護学, 准教授	700	210	ナース・プラクティショナー (仮称) 制度の構築に向けた養成教育カリキュラム検討
〃	泉 雅之 看護学 学部 臨床実践看護学, 教授	800	240	診療看護師・研修医・医学生の医療面接におけるコミュニケーションの特徴
〃	谷口 千枝 看護学 学部 成人看護学, 准教授	700	210	心血管疾患患者の退院後再喫煙予防のための禁煙支援プログラムの開発
〃	坂本 真理子 看護学 学部 地域在宅看護学, 教授	800	240	地域で活動する保健師の異文化間看護能力育成プログラムの開発
〃	深見 保之 医学 学部 外科学 (消化器外科), 講師	2,200	660	術前からEMSを用いた肺癌サルコペニア予防プログラムの多施設共同開発
〃	松下 宏 医学 学部 産婦人科学, 准教授	600	180	骨強度の観点から女性アスリートの妊娠・出産後の競技復帰を促進するための基礎的研究
〃	森 直治 医学 学部 緩和ケアセンター, 教授	600	180	がん悪液質の日本人における診断基準の確立
〃	関 泰輔 医学 学部 メディカルセンター, 教授 (特任)	1,900	570	運動器疾患をターゲットとした生活習慣・栄養摂取に関するバイオマーカー探索
挑戦的研究 (開拓) (基金)	小林 孝彰 医学 学部 外科学 (腎移植外科), 教授	5,500 (継続)	1,650	抗ドナー HLA抗体産生を決定する濾胞ヘルパー T細胞クロノタイプの同定とその制御
挑戦的研究 (萌芽) (基金)	岡田 洋平 医学 学部 内科学 (神経内科), 准教授	(再延長)	0	CAGリピート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の開発
〃	各務 秀明 医学 学部 歯科口腔外科学, 教授 (特任)	1,000 (継続)	300	マイクロ流体デバイスを用いた血中循環がん細胞クラスター抽出法の開発
若手研究 (B) (基金)	船木 淳 医学 学部 シミュレーションセンター, 講師	(再延長)	0	フライトナースのシミュレーション看護教育プログラムの検証
若手研究 (基金)	伊藤 卓治 医学 学部 内科学 (神経内科), 特別研究助教	(再延長)	0	疾患iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経・筋相互作用分子基盤の解明
〃	成定 明彦 医学 学部 産業保健科学センター, 講師	(再延長)	0	隠れマルコフモデルによる糖尿病発症モデル構築と糖尿病発症予防への展開
〃	森島 達観 医学 学部 整形外科, 講師	(延長)	0	最小侵襲手術に対応可能なセメントステムの有限要素モデルを用いた開発
〃	田口 宗太郎 医学 学部 パーキンソン病総合治療センター, 助教	(延長)	0	パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性
〃	東 慶輝 医学 学部 小児科学, 講師	(延長)	0	次世代シーケンス解析を用いた新規てんかん遺伝子の探索
〃	谷口 千枝 看護学 学部 成人看護学, 准教授	(延長)	0	看護職のための簡便かつ効果的な禁煙サポートツールの開発と評価
〃	山雄 さやか 医学 学部 近視進行抑制寄附講座, 助教	(延長)	0	加齢黄斑変性の経過評価への変視量の応用
〃	梶浦 真由美 医学 学部 外国語, 准教授	(延長)	0	第二言語における文字と音声の同時処理 - 反応時間, 眼球運動, 脳活動からの考察 -

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	陸 美 穂 医学部 助教	(延長)	0	乳癌の新規予後規定因子TSHZ2によるクロマチン制御と上皮間葉転換調節機構の解明
〃	佐 藤 啓 医学部 講師	(延長)	0	RNAscopeを用いた末梢性T細胞性リンパ腫, 非特定型の微小環境解析
〃	テ・アラウジョ・エルケラノ プルーノ 客員研究員	(延長)	0	Drug screening system for early pathology of SBMA using disease specific iPSCs and novel biomarkers
〃	伊 藤 卓 治 医学部 特別研究助教	(延長)	0	疾患iPS細胞による神経・筋共培養を活用した神経変性疾患の病態解析システムの開発
〃	森 麻 里 医学部 助教	200 (継続)	60	NICU入院中の早期運動負荷による新たな早産児の発育改善への試み
〃	丸 尾 貴 志 医学部 講師	600 (継続)	180	320列ADCTを用いた下咽頭癌術後嚥下機能障害の解析
〃	松 井 陽 子 看護学部 助教	400 (継続)	120	精神科看護管理者のリカバリー志向を高める取り組み-影響要因へのアプローチから-
〃	福 重 香 医学部 助教	1,000 (継続)	300	酸素ナノ気泡による効率的なヒト細胞大量培養法の確立
〃	安 藤 博 彦 医学部 准教授	800 (継続)	240	若年性心筋梗塞に対するオメガ3脂肪酸補充療法の有用性および発症予防の検討
〃	赤 木 明 生 加齢医学研究所 講師	700 (継続)	210	ヒトプリオン病における異常プリオン蛋白質の非中枢神経組織への広がり解明
〃	伊 藤 秀 明 医学部 講師	800 (継続)	240	STILによるタイトジャンクション減弱機構の解明と非浸潤性乳管癌病理診断への応用
〃	伊 藤 誠 医学部 講師	500 (継続)	150	大腸がん少数個腹部リンパ節再発に対する逐次免疫療法併用・寡分割放射線治療の標準化
〃	成 田 晶 子 医学部 助教	400 (継続)	120	抗菌・鎮痛性能を有すX線可視化高吸水性ポリマー製球状物質を用いた血管塞栓術の確立
〃	上 田 昌 史 医学部 助教	1,000 (継続)	300	ZTTK症候群の知的障害発症機構解明を目指した核内蛋白質SONの機能解析
〃	竹 下 覚 医学部 助教	900 (継続)	270	SGA児の血小板減少の機序解明と血小板制御による神経発達改善への治療戦略
〃	井 上 匡 央 医学部 講師	1,100 (継続)	330	胆管癌に対する新規局所治療法の開発
〃	森 田 奈 央 子 医学部 助教	1,000 (継続)	300	インフラマソームがRSウイルスの病原性発現に与える影響
〃	石 原 亮 太 医学部 助教	600 (継続)	180	脳水チャネル調節での脳浮腫抑制と低酸素プレコンディショニングによる脳神経保護
〃	苛 原 隆 之 医学部 准教授 (特任)	1,100 (継続)	330	侵襲時の栄養代謝動態の変化と治療的介入の可能性
〃	佐 野 壘 研究員	1,000 (継続)	300	甲状腺癌における免疫環境の解明と免疫療法の確立

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	石田雄一郎 医学部 眼科学, 助教	700 (継続)	210	網膜細胞死抑制を介した新たな網膜剥離治療の開発
〃	中山綾子 看護学部 基礎看護学, 助教	500 (継続)	150	看護師の交代制勤務継続を可能にする健康管理行動実践に向けた教育ツールの開発
〃	篠壁多恵 医学部 公衆衛生学, 講師	600 (継続)	180	味覚に関する遺伝子多型と糖質摂取の循環器疾患危険因子への影響
〃	板津良 看護学部 基礎看護学, 助教	500 (継続)	150	集中治療室における薬剤耐性菌MRSA交差伝播の危険因子とリスク低減ケア方策の解明
〃	家崎高志 医学部 生理学, 助教	1,200 (継続)	360	自己増幅型RNAとナノ脂質粒子DDSを用いた軟骨無形成性症治療法開発研究
〃	高原大志 医学部 病理診断学, 助教	1,400 (継続)	420	腎細胞癌におけるTGF- β 発現の意義の解析
〃	水野昌平 医学部 血液内科, 准教授(特任)	1,300 (継続)	390	PVT1 RNAに着目した新たなリンパ腫の分子病態解明と新規標的治療への応用
〃	小川実加 医学部 中央臨床検査部, 講師	800 (継続)	240	血友病関節症の解明と新規治療法開発: 骨芽細胞, MSC, メトホルミンに着目して
〃	金杉丈 医学部 内科学(血液内科), 助教	1,100 (継続)	330	CRISPR/Cas9システムを用いたFAM46Cのゲノム編集および表現型解析
〃	塩入達政 分子医科学研究所 助手	700 (継続)	210	I型アレルギー反応の決定的セルグリン: 肥満細胞分泌顆粒への輸送機構
〃	青山正寛 医学部 脳神経外科学, 講師	600 (継続)	180	慢性硬膜下血腫にたいするエビデンスのある薬剤の解明
〃	林文子 看護学部 母子看護学, 講師	1,100 (継続)	330	妊娠糖尿病の一次予防に関するエビデンスの構築: 非妊娠時の骨格筋量と血糖値の関連
〃	三岡裕貴 医学部 血管外科, 助教	1,200	360	静脈弁の機能に着目した一次性下肢静脈瘤予防法の開発
〃	小野寺一成 医学部 内科学(神経内科), 特別研究助教	1,800	540	患者神経細胞で高発現する早期病態因子に着目した球脊髄性筋萎縮症の病態解析
〃	山口真 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科, 講師	700	210	ANCA関連血管炎におけるグリコカリクスをバイオマーカーとした新規治療戦略の確立
〃	堀尾知弘 医学部 血液内科, 講師	1,500	450	ヘムオキシゲナーゼ1遺伝子多型ゲノム編集造血幹細胞による生体防御機構の網羅的解析
〃	単西瑠 医学部 解剖学, 助教	1,700	510	Cadaveric investigation of the morphological and mechanical characteristics of aponeurosis on the mechanism of muscle strain injury
〃	西須大徳 医学部 運動療育センター, 助教	2,400	720	神経機能評価による三叉神経痛・三叉神経ニューロパチーの治療予測の確立
〃	高橋礼子 災害医療研究センター 講師	100	30	大規模災害時の医療機関でのライフライン途絶に対する『籠城支援』教育アプリの開発
〃	成定明彦 医学部 産業保健科学センター, 講師	1,000	300	ウィズコロナ時代の労働者の熱中症の検討と予防対策の確立

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	大塚 俊 医学部 解剖学, 助教	500	150	身体運動や加齢に対する深筋膜の変化とその機序の解明
研究活動スタート支援 (基金)	若山 怜 医学部 衛生学, 助教	(延長)	0	行動変容ステージが生活習慣と生活習慣病予防に及ぼす影響の縦断的検討
〃	馮 国 剛 医学部 麻酔科, 助教	1,200 (継続)	360	Regulation of inflammatory response by autonomic nervous system in macrophages
〃	松尾 友 仁 医学部 法医学, 助教	1,000 (継続)	300	新規前処理法を用いた尿中薬毒物LC-MS/MS分析法開発
〃	深谷 基 裕 看護学 母子看護学, 准教授	1,000 (継続)	300	臨床倫理コンサルテーションで初動者が必要とするスキルの明確化に関する研究
奨励研究 (補助金)	柴田 由 加 中央臨床検査部 臨床検査技師	470	0	糖尿病性神経障害の非侵襲性早期診断法の確立：超音波を用いた末梢神経の形態解析
〃	丸山 洋 平 医学部 解剖学, 助手	480	0	新たなオゾンガス送達技術を用いたホルマリン濃度低減法の開発

- ・令和4年7月1日時点の情報を掲載
- ・研究種目及び課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・令和4年7月までの転入転出を含む
- ・基金については、今年度請求額を記載
- ・挑戦的研究（新規）及び研究活動スタート支援（新規）は交付決定次第記載予定

令和4年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

令和4年度厚生労働科学研究費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	中村 二 郎 医学部 先進糖尿病治療学寄附講座, 教授	4,200	1,260	糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立
難治性疾患政策研究事業	奥村 彰 久 医学部 小児科学, 教授	3,000	900	早産児ビリルビン脳症の診療指針の改訂および包括的診療体制の確立
難治性疾患政策研究事業	曾根 淳 加齢医学研究所 講	2,000	600	神経核内封入体病（NIID）の臨床疫学調査および疾患概念確立
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	三 鴨 廣 繁 医学部 臨床感染症学, 教授	6,200	800	性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究

- ・令和4年7月1日時点の情報を掲載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付申請書」を基に作成

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第47回公益社団法人日本口腔外科学会中部支部学術集会	令和4年5月21日（土）	風岡 宜暁
・第139回日本結核・非結核性抗酸菌症学会東海支部学会 第121回日本呼吸器学会東海地方会 第24回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会中部支部会	令和4年5月21日（土）・22日（日）	伊藤 理
・第70回日本化学療法学会総会	令和4年6月3日（金）～5日（日）	三嶋 廣繁
・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会第181回東海地方部会連合講演会 2022年度補聴器相談医更新のための講習会	令和4年6月5日（日）	藤本 保志
・第28回日本血管内治療学会学術集会	令和4年6月24日（金）・25日（土）	宮地 茂
・第56回中部形成外科学会学術集会	令和4年7月23日（土）	古川 洋志

第47回公益社団法人日本口腔外科学会中部支部学術集会

歯科口腔外科学講座・教授 風岡 宜暁

令和4年5月21日（土）ウインクあいちにおいて、第47回公益社団法人日本口腔外科学会中部支部学術集会が開催されました。

本学会は、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県、石川県、富山県、福井県の8県の持ち回りで年1回開催されております。今年度は、新型コロナウイルス感染症に配慮し、オンラインを併用したハイブリッド形式での開催となりましたが、大学病院、一般病院の歯科医師を始め、一般開業医の方など約280名にご参加・ご視聴いただくことができました。

学会当日には、学会理事長講演1題、スポンサードセミナー1題、ミニシンポジウム8題、一般口演27題、ポスター発表17題がありました。久しぶりの対面開催ということもあり、どの講演も活発な討論がなされ、大変有意義な学会となり成功裏の内に無事に学会を終えることができました。

末筆となりましたが、本学会開催に当たり一般財団法人愛知科大学愛恵会からご支援いただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第139回日本結核・非結核性抗酸菌症学会東海支部学会

第121回日本呼吸器学会東海地方会

第24回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会中部支部会

内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）・教授 伊藤 理

令和4年5月21日（土）及び22日（日）に、日本結核・非結核性抗酸菌症学会、日本呼吸器学会、日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会の3学会合同地方学会が開催されました。新型コロナウイルス感染症感染流行の影響により、名古屋市中小企業振

興会館会議室を配信会場としたWeb開催となりました。

会長主催の特別講演は、本学山口悦郎名誉教授・特命教授に講師をご快諾いただき、本学が診療の主導的な役割を果たしている難病である自己免疫性肺

胞蛋白症について、その病態機序と治療法に関する最新の知見を解説していただきました。また、学会企画の男女共同参画講演では、本学医学教育センターの河合聖子講師にご担当いただき、キャリア形成とワークライフバランスの実践に関する素晴らしい講演を賜ることができました。一般演題では、本診療科の片野拓馬助教が、顕微鏡的肺腫瘍塞栓を伴った腎細胞癌に関する大変貴重な症例を発表して

くださいました。

今回、200名を超える方に参加登録及び視聴していただき、関係する皆さまのご支援、ご協力のおかげで成功裏に終えることができました。感謝申し上げます。本学会の開催に際しまして、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第70回日本化学療法学会総会

第70回日本化学療法学会総会は、令和4年6月3日（金）から5日（日）までの3日間の日程で、岐阜県岐阜市にある長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川にて開催させていただきました。

第70回の総会では、テーマとして「微生物・炎症との戦いと共生～70年を振り返り、未来に繋ぐ～」を掲げさせていただきました。コロナ禍の中ではありませんでしたが、日本政府の経済活動緩和戦略の効果もあり、現地参加者1,000名以上、Web参加者1,700名以上の合計2,700名以上の参加者を得て、久しぶりに多くの研究発表と活発な討論が行われました。

なお、第70回記念大会ということで、テーマにも掲げさせていただきました「70年を振り返り、未来

臨床感染症学講座・教授 三嶋 廣繁

に繋ぐ」という意味で、将来の本学会を担う若手の先生3名による特別シンポジウムも開催し、本学客員教授で高知大学医学部臨床感染症学の山岸由佳教授にご登壇いただきました。また、教育講演では、本学内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）の伊藤理教授、本学分子疫学・疾病制御学寄附講座の萩原真生准教授からご講演を賜り感謝申し上げます。

末筆となりましたが、本学会の開催に当たりご支援を賜りました講座関係者、本院感染制御部の方々には感謝致します。また、学会開催に当たってご支援を賜りました一般財団法人愛知医科大学愛恵会の関係者の方々に衷心より御礼を申し上げます。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会第181回東海地方部会連合講演会 2022年度補聴器相談医更新のための講習会

令和4年6月5日（日）に、「日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会第181回東海地方部会連合講演会」及び「2022年度補聴器相談医更新のための講習会」が本学本館たちばなホールにて開催されました。開催方式は現地のみで行いました。本学での現地開催は4年ぶりとなります。

第181回東海地方部会連合講演会は午前中に行われ、三重や岐阜など遠方からも含め111名の方々に参加されました。一般演題の発表が14題あり、活発な質疑応答が行われました。久しぶりに行われたリアル開催での学会の良さを実感することができました。

また、午後には2022年度補聴器相談医更新のための講習会が行われ、補聴器専門医を含む139名の方々が参加されました。東海地方の各県3名の補聴器

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座・教授 藤本 保志

キーパーソンが講師として講演いただき、特に、愛知県補聴器キーパーソンの柘植勇人講師（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院耳鼻咽喉科）による「耳鳴治療で活用する補聴器：理論的背景と効果」の講演では、耳鳴が難治性の症状であるため関心も高く、多数の質疑応答がありました。

新型コロナウイルス感染症蔓延の影響でWebでの学会開催が続く、本学での現地開催は久方ぶりで若干の混乱もありましたが、会場内での人数制限をすることもなく、本学会は盛況の内に終了することができました。

皆さまのご協力により、また、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からのご支援により、大きなトラブルもなく終了できましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第28回日本血管内治療学会学術集会

脳神経外科学講座・教授 宮地 茂

令和4年6月24日（金）及び25日（土）名古屋コンベンションホールを現地会場として、第28回日本血管内治療学会学術集会がハイブリッド形式で開催されました。【写真】

本学会は血管外科、放射線科、循環器内科、脳神経外科の4領域の中の血管内治療医が集う会で、今回副会長として外科学講座（血管外科）の石橋宏之教授、内科学講座（循環器内科）の天野哲也教授、放射線医学講座の鈴木耕次郎教授にご協力いただきました。テーマは「血管はどこもつながっている！！でもドコがちがう？」として、横断的学会の良さを活かし、各セッションで独自のデバイスや、技術を披露してもらいつつ、専門の垣根を越えた有意義な討論が行われました。



開会式の様子

プログラムとしては、10のプレナリーセッション、七つのシンポジウム、三つのパネルディスカッション、二つの教育セミナー、八つの企業セミナーなど計82演題のほか一般演題27題と多数の発表をしていただきました。

これまでで最高的人数である457名の参加者を得て、どのセッションも大変盛り上がりました。また、本学会直前には、血管内治療の最前線について市民の皆さまに知ってもらうために新聞広告も行いました。

本学会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会から多大なるご支援をいただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



第56回中部形成外科学会学術集会

形成外科学講座・教授 古川 洋志

令和4年7月23日（土）午前9時30分から午後6時まで、本学本館たちばなホールにおいて第56回中部形成外科学会学術集会が現地参加とZoomによるハイブリッド形式で開催されました。

プログラムは一般演題36題、領域講習・特別講演として、福島県立医科大学形成外科の小山明彦教授による「唇裂・口蓋裂患者の輝く笑顔を求めて～出生から成人に至る集学的治療」をご講演いただきました。また、アフタヌーンセミナーには塩之谷整形外科院長の塩之谷香先生に、巻き爪、陥入爪治療の矯正治療についてご講演いただきました。

本学会には188名の参加登録があり、当初は現地参加とWeb参加が半々だったのですが、COVID-19感染第7波が到来し、当日まで現地参加からWeb参加への変更に対応していたところ、最終的には現地参加が81名、Web参加が107名となりました。

感染対策として、現地での当日参加受付を行わないこととし、独自ネットショップを通して事前参加登録・クレジットカード決済を済ませていただくことで、参加人数を完全に把握し、現金の取り扱いを省略しました。そして、直前の感染状況のアナウンス、感染対策を講じた上で開催予定とする会長からのアナウンスを、ネットショップからのメールマガジン機能を利用して、参加登録者へ繰り返し発信しました。このノウハウは前医局長だった海南病院の安村恒央先生の発案で、第16回日本褥瘡学会中部地方会でも実行されたものです。

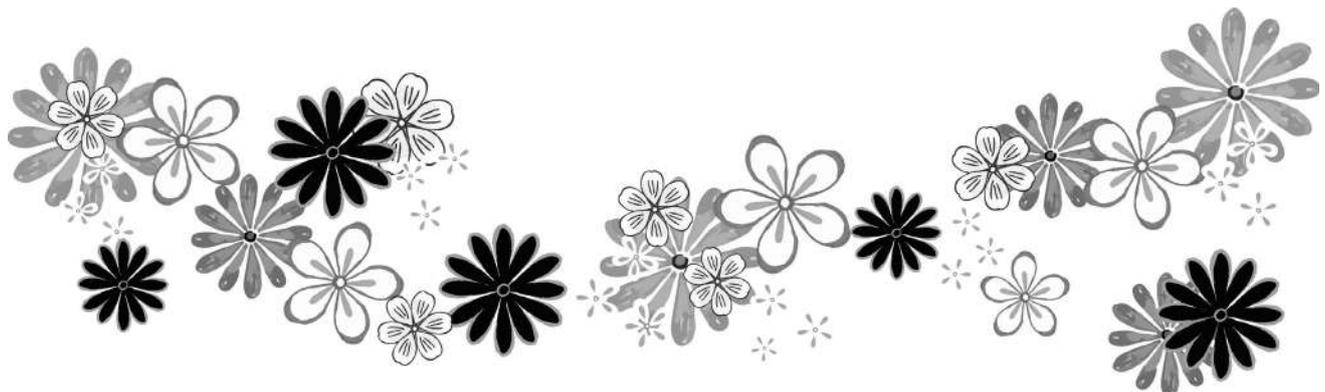
当日の昼食は、現地参加登録者のうち希望者分のみお弁当を準備しました。お食事や休憩場所に本学レストラン「オレンジ」を拝借することで飲食とホー

ルを完全に分離でき、十分なスペースでお食事や休憩をとることができました。

会場内におけるハイブリッドの進行は、2名の業者さんに手伝ってもらいましたが、それ以外の会場アナウンス・音響・照明・

質疑応答時のワイヤレスマイクの受け渡しなど、ほとんどを本診療科の教室員19名でカバーしました。また、大学本館203講義室での役員会は、業者を入れずにハイブリッドにて開催されました。また、プログラムの表紙やホームページを彩った長久手古戦場における医療機器を持ち構えた戦国武将の劇画【写真】は、教室員で大雄会第一病院の伊藤悠介先生の手によるものです。伊藤先生の作品採用は、第16回日本褥瘡学会中部地方会に次いで2回目です。

このような手作りの学会を、自身が平成30年に赴任して以来、初めてここ愛知医科大学で開催し無事終了できたのも、教室員が力を合わせて頑張ってくれたこと、そして本学事務局総務部総務広報課の皆さま及び一般財団法人愛知医科大学愛恵会のご支援のお陰です。この場をお借りして感謝申し上げます。



世界標準の治療ができる眼形成外科医の育成

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

眼形成外科が大学病院に単独科として存在するのは世界に2か所のみ。アムステル大学メディカルセンターと本院の眼形成・眼窩・涙道外科です。国内においては唯一無二の存在です。そのため我々は、しばしば国内外の施設から興味をもたれて、見学生や留学生を受け入れる機会があります。確かに診療内容自体は一般眼科からするとやや特殊なため、驚かれることは多いですが、その内実は覇道ではなく王道。決して奇をてらったことをしているわけではなく、教育、研究、臨床を文字通り基本に忠実に日々行っています。

クリニカルクラクシップにおいては、既にある程度座学による知識の蓄積があることを前提に、医師の指導の下、実際の外来、手術、病棟診療にかかわってもらうことで、教科書と実践の行間を埋めてもらうことを最重視しています。

卒後教育において研修医には、上級医に常に確認できる環境を確保しながら、外来、手術の研鑽を行ってもらい、早い時期に独り立ちして、専門家の少ない分野の医師の一員として社会貢献できるようにシステムを組んでいます。一人で多数の手術や診療をこなせるようになることももちろん大事ですが、人が一人でできることは限界があるので、世界標準の治療が確実に行える医師を本診療科からコンスタントに輩出していくように教育に力を入れています。

【世界に発信する医学研究】

本診療科では、世界に先駆けて眼瞼、眼窩、涙道の解剖研究を行い、これまで常識と言われてきたこ

眼形成・眼窩・涙道外科 教授（特任） 柿崎 裕彦

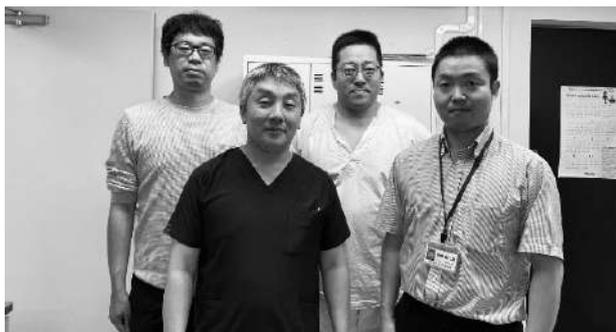
とを覆してきました。

眼瞼分野においては、下眼瞼のlower eyelid retractorsと呼ばれる部分が二層構造であることを解明し、そのことを利用した新術式の発明によって、退行性下眼瞼内反症の術後の再発を限りなくゼロに近づけることに成功してきました。上眼瞼においても、上眼瞼挙筋の末端が上枝と下枝に分かれて、上枝からaponeurosisが、下枝からミューラー筋が起始することを解明し、現在の小切開眼瞼下垂手術における臨床解剖の理解の一助となっています。眼窩分野においては、本診療科で蓄積された眼窩骨折の多数の症例データを基に、原因や傾向を解明し、症例に応じて理想的な手術術式やインプラントを選択して手術時間を短縮する方法を編み出しました。涙道分野においては、ご遺体での解剖研究をもとに、実際の生体での導涙機構を内視鏡を用いて可視化し、解明してきました。

今後もそれぞれの領域で更なる研究成果を積み重ねていきます。

【部署からの一言】

眼形成・眼窩・涙道外科は、まだまだ専門家が少ない領域であり、全国で正しい診断、治療に至らずに困っている患者さんがいらっしゃいます。一般眼科では、診断がつかず、適切な治療が行われていなかった患者さんが、本診療科で診断が付き、治療されて、ここにきて良かったと満足される瞬間は、何よりもやりがいを感じる瞬間です。今後も世界標準の治療ができる眼形成外科医を育成し、また、絶え間なく新たな研究成果を発表し、世界規模で医療に貢献できるよう努めていきます。



スタッフ一同



手術風景

やり甲斐と生き甲斐を感じる耳鼻咽喉科・頭頸部外科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 藤本 保志

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は守備範囲が広く、感覚器（嗅覚、視覚、聴覚、味覚、触覚）の障がいに深く関わりながら、呼吸、嚥下、発声など生存に不可欠な機能を扱うので、人の痛みが分かり、寄り添える人間であることがまず求められます。その上で、世界標準の治療を提供しながら次世代標準をつくり出せる教育が必要です。

より良い治療法が証明されたら、標準治療は変わります。頭頸部癌のTNM分類は2018年に劇的に変わりました。肝心なことは教科書の変化に慌ててガイドラインを丸覚えするのではなく、その変化に至るまでのプロセスに関わることです。新しい標準あるいはガイドラインの基礎は日々の臨床です。毎日の臨床研修や実習の中で、医学発展の歴史の中のどこにいるのかの位置付けが実感できるように努めています。

手術手技の取得のためには実際の経験が不可欠です。それを患者の安全と両立しながら、より効率良く学ぶために我々はモデルを用いたハンズオン（超音波実習や小手術）、解剖学教室の協力のもとにキャダバーを用いたサージカルトレーニングを重視しています。今年には本院で初めてチール法を導入し、ホルマリン固定とは異なる、生体に近い状態での実習を行います。昨年からは希望した学生や研修医を受け入れ、学生から研修医、専攻医、そして専門医教育へと連続する教育体制を造っています。

【世界に発信する医学研究】

頭頸部班ではJCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）



耳鼻咽喉科・頭頸部外科HPを開設しました。
(<https://aichi-med-otohns.jp/>)

の「早期舌癌における予防的頸部郭清術 (JCOG1601)」、 「咽頭癌化学放射線治療の最適化 (JCOG1912)」のほか、「ヒトパピローマウイルス (HPV) 関連中咽頭癌の術前化学療法の研究 (AMED)」、 「旁神経節腫の遺伝子解析」に参加しています。基礎研究では「HPV関連癌における免疫能確認の研究 (基盤C)」、 更に上記根治治療前に免疫治療を行う導入免疫療法を模索しています。聴覚部門では「脳形態学的変化から捉える感覚機能と認知機能低下の相互作用：長期縦断疫学研究 (基盤A)」に参加し、地域中高年者約2,000名の感覚機能低下を感覚器フレイル (Sensory Frailty) と捉え、感覚機能低下と認知機能低下の縦断的相互関係を脳形態学的変化・認知症背景病理等の修飾可能因子の解明を目指しています。

研究でもう一つ大切なこと、楽しくなければ続きません。「256列CTを用いた極高音発声時の喉頭運動研究」、 「嚥下筋の組織学的解析－サルコペニアの解明」、 「新しい内視鏡下頸部手術・音声手術の開発」などの研究班も立ち上げました。若手の自由な発想を活かしたシーズの醸成にも注力しています。

【部署からの一言】

日本頭蓋底外科学会で他学の若手が全国の先進施設の見学企画があり、本診療科の評価は「とっても楽しそう！」でした。臨床も研究も「やり甲斐」があれば楽しくなります。日本全国に、世界に仲間ができます。世界一の臨床レベルを目指しつつ、一緒に学びたいと思います。



キャダバーを用いたサージカルトレーニング

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

こころのケアセンター

リエゾン活動を目的としたこころのケアセンターは、開設から10年が経ちました。こころのケアセンターには、精神科医（精神神経科と兼任）と臨床心理士／公認心理師が所属しています。「リエゾン」とは、「つなぎ」を表すフランス語であり、身体とこころをつなぐ精神医学の一分野です。本院ではメンタルケアを必要とする身体疾患で入院中の患者さんに、適宜投薬や心理サポートを行っています。更に、主科の治療が円滑に進むように、専門の看護師、精神保健福祉士とともに、多職種によるリエゾンラウンドやリエゾンカンファレンスを毎週行っています。

現在、こころのケアセンターでは、コロナ禍で大変な状況にある病院職員のメンタルサポートに



こころのケアセンター構成員

も取り組んでいます。それにはまず、サポートを提供する自分たちのこころの健康を保つことが大切であり、こころのケアセンタースタッフ内では、日頃から何でも話せるような関係作りをこころがけ、自身の気持ちをモニタリングするよう努めています。

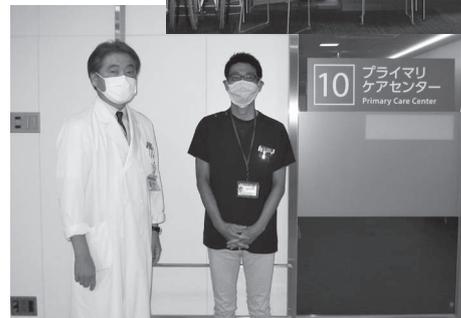
プライマリケアセンター

プライマリケアセンター（PCC）は、新病院開院時に開設された中央診療部門に所属する施設です。PCCの役割は三つに分けられ、総合外来としての機能、救急外来としての機能、トレーニングセンターとしての機能を担っています。

平日の時間内は総合外来として臓器や領域が特定できない患者さんの診療、Common diseaseの対応などを行い、専門診療科外来の効率化と円滑化に寄与し、更には地域の医療機関と大学病院をつなぐ窓口、或いはゲートキーパーとしての役割も担っています。コロナ禍の現在でも月に500例程度の患者さんの診療を行っています。

時間外はウォークインの救急外来として、全ての領域の診療を行っています。現在は通常業務に加えて、コロナ対応として陰圧室での診療や発熱患者の水際対応なども行っており、多忙を極めています。

トレーニングセンターとしては、初期研修医のPCCへのローテートが必須化されており、総合外来では指導医の下でプライマリケア外来研修を行って



プライマリケアセンター受付及び構成員

います。卒前教育においては、総合診療医学講座のクリニカルクラークシップの外来実習や早期体験実習も受け入れています。

PCCの円滑な運用には全ての診療科の協力が不可欠です。これからも診療科間の連携を更に強化し、より良いPCCの運営を目指して参ります。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

個人情報保護に関する規程の一部改正等

個人情報保護に関連する法令の改正に伴い、必要な事項を整備するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年6月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学個人情報保護に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学個人情報保護管理委員会規程
- ・学校法人愛知医科大学個人情報開示等の手続に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学情報セキュリティに関する規程

「医学部事務部事務分掌について」の一部改正

令和4年7月1日付けで「医学部事務部事務分掌について」（法人本部長・事務局長裁定）の一部が改正され、医学部事務部に新たに入試課が設置されました。

構内における車両の規制に関する規程の一部改正

愛知医科大学構内における車両の規制に関する規程の一部が改正され、メディカルセンター職員の駐車場使用料等が整備されました。

施行日は令和4年6月1日

車両管理規程の一部改正

学校法人愛知医科大学車両管理規程の一部が改正され、職員個人の自動車の使用に係る規定が改められました。

施行日は令和4年4月1日

役職者選考組織の整備に係る関係規則の整備

学内の主要役職者（学長、学部長及び病院長）の選考組織の構成を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年5月30日

【一部改正】

- ・愛知医科大学学長規程
- ・愛知医科大学学部長規程
- ・愛知医科大学病院長任用規程

看護学部臨床教授等に関する規程の一部改正

愛知医科大学看護学部臨床教授等に関する規程の一部が改正され、NP部設置に伴う必要事項が整備されました。

施行日は令和4年4月1日

総合学術情報センター（図書館部門）図書管理規程の一部改正等

備品図書の蔵書点検及び講座等への長期貸出の手続き等を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年8月1日

【新規制定】

- ・総合学術情報センター（図書館部門）講座等長期

貸出図書内規

【一部改正】

- ・愛知医科大学総合学術情報センター(図書館部門) 図書管理規程
- ・愛知医科大学総合学術情報センター(図書館部門) 利用規程

先進医療の推進に関する規程の一部改正

愛知医科大学病院の先進医療の推進に関する規程の一部が改正され、本院で実施できる先進医療の要件が改められました。

施行日は令和4年7月1日

メディカルクリニック再編に伴う 関係規則の整備

メディカルクリニックを再編し、眼科領域の診療及び研究に特化した眼科クリニックMiRAIとするため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年6月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学学則
- ・学校法人愛知医科大学経理規程
- ・学校法人愛知医科大学固定資産管理規程
- ・学校法人愛知医科大学文書規程
- ・学校法人愛知医科大学公印規程
- ・学校法人愛知医科大学文書保存規程
- ・学校法人愛知医科大学事務組織規程
- ・事務組織の所掌事務細目について(法人本部長裁定)
- ・病院事務部事務分掌について(法人本部長・事務局長裁定)
- ・学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・学校法人愛知医科大学管理職の職務の代理に関する要綱
- ・臨床系教員学外研修取扱規程
- ・学校法人愛知医科大学育児休業等に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学介護休業等に関する規程

- ・学校法人愛知医科大学看護休暇に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学介護休暇に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学安全衛生管理組織規程
- ・弔慰金取扱基準(理事長裁定)
- ・学校法人愛知医科大学過半数代表者選挙細則
- ・学校法人愛知医科大学管理職手当に関する細則
- ・愛知医科大学メディカルクリニック電気保安規程
- ・学校法人愛知医科大学エネルギーの使用の合理化に関する規程
- ・シンボルマークについて(理事長裁定)
- ・愛知医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理規程
- ・愛知医科大学受託研究規程
- ・愛知医科大学医学部予算委員会規程
- ・愛知医科大学医学部教員選考規程
- ・メディカルクリニック教員の専門分野の選考について(病院長裁定)
- ・愛知医科大学医学部倫理審査実施規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程
- ・愛知医科大学病院部長会規程
- ・愛知医科大学病院人材交流委員会内規(病院長裁定)
- ・愛知医科大学附属病院精度管理要領
- ・愛知医科大学病院薬事委員会規程
- ・愛知医科大学病院治験審査委員会要綱(標準業務手順書)
- ・愛知医科大学病院製造販売後臨床試験審査委員会要綱(標準業務手順書)
- ・治験及び製造販売後調査の経費の取扱いについて(理事長裁定)
- ・看護職員海外派遣研修要綱
- ・愛知医科大学医学部附属メディカルクリニック規程
- ・愛知医科大学医学部附属メディカルクリニック運営委員会規程
- ・愛知医科大学医学部附属メディカルクリニック医療安全管理委員会規程

- ・愛知医科大学医学部附属メディカルクリニックオンライン請求システムに係る安全対策要綱
- ・愛知医科大学メディカルクリニック医薬品製造販売後調査実施要綱
- ・愛知医科大学メディカルクリニック精度管理委員会規程

【廃止】

- ・愛知医科大学医学部附属メディカルクリニック副クリニック長規程

**眼科クリニックMiRAI治験実施要綱
(標準業務手順書)の制定等**

眼科クリニックMiRAIにおいて治験を実施できる体制を整備するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年7月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学眼科クリニックMiRAI治験実施要綱(標準業務手順書)

【一部改正】

- ・治験及び製造販売後調査の経費の取扱いについて(理事長裁定)

メディカルセンター規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター規程の一部が改正され、診療科として新たに精神科が設置されました。

施行日は令和4年4月1日

**メディカルセンター訪問看護ステーション
運営規程(医療保険)の一部改正等**

訪問看護ステーションの人員配置を変更するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年7月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程(医療保険)

- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程(介護保険)

**学際的痛みセンターの講座化に伴う
関係規則の整備**

医学部附属施設である学際的痛みセンターを講座化し、新たに医学部に疼痛医学講座を設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年7月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学学則
- ・事務組織の所掌事務細目について(法人本部長裁定)
- ・学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・学校法人愛知医科大学管理職の職務の代理に関する要綱
- ・臨床系教員学外研修取扱規程
- ・愛知医科大学医学部の学科目及び講座に関する規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科履修規程

【廃止】

- ・愛知医科大学医学部附属学際的痛みセンター規程
- ・愛知医科大学医学部附属学際的痛みセンター運営委員会規程